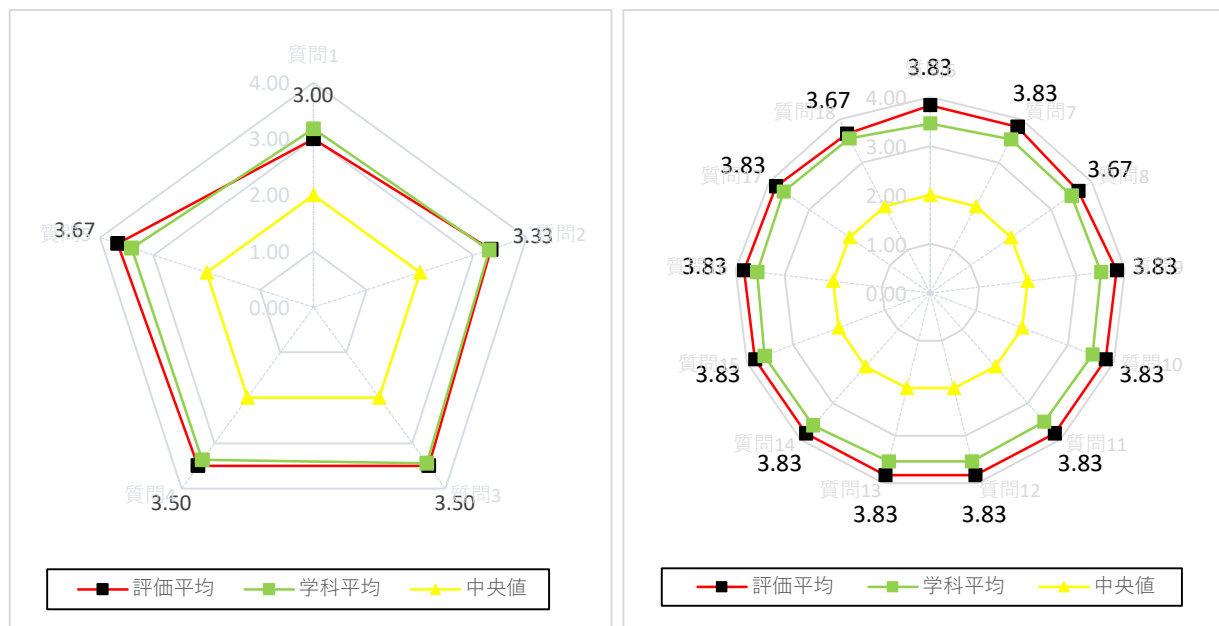


学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		あすなろう	8名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

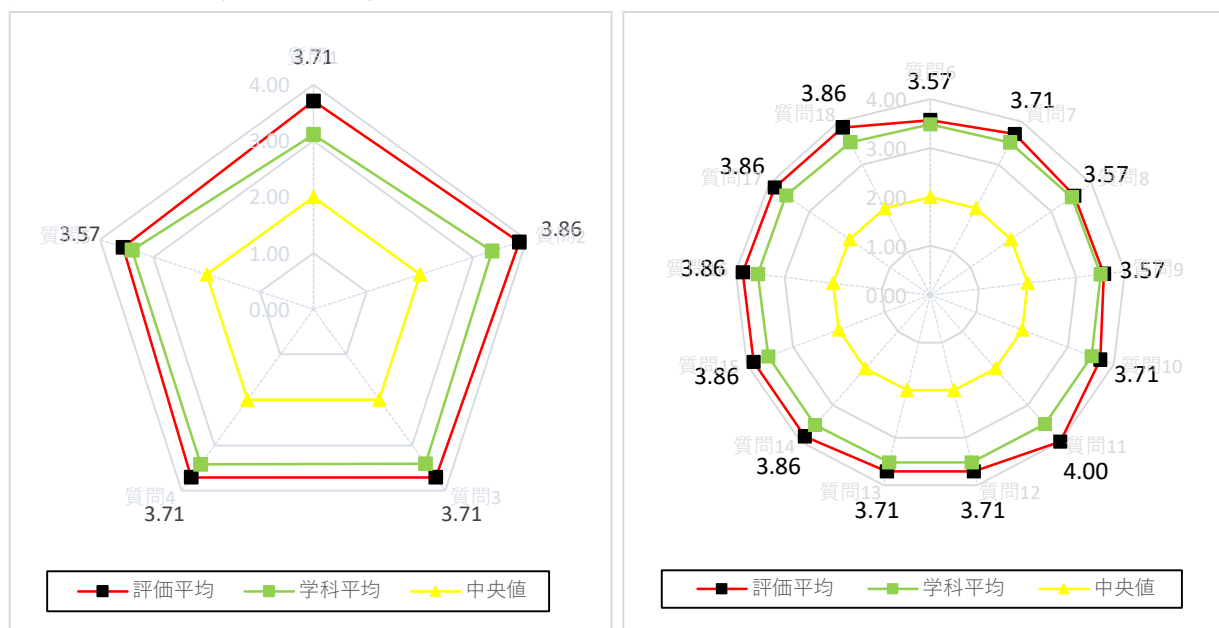
授業アンケート結果の分析と結果として、学科全体と比較しても高い評価を得ていた。具体的には、質問5「あなた自身の総合自己評価」、質問6「シラバス（授業計画）について説明がありましたか。」、質問7「教員は授業の到達目標を明確にして、授業を展開していましたか。」、質問9「授業は分かりやすくする工夫がされていましたか。」、質問10「視聴覚機器や板書の使い方は適切でしたか。」、質問11「教科書・配布資料等は役に立ちましたか。」、質問12「声の大きさ・明瞭さ・話す速さは適切でしたか。」、質問13「授業の進む速さは適切でしたか。」、質問16「教員は双方向的なやり取りをしながら、授業を行っていましたか。」などの項目が学習の効果として高い数値となっていた。特にこれらの項目は主体的な学習・能動的な取り組みの結果であり、これまでの授業改善が効果的に影響したものと考えられる。しかしながらその一方で、質問1「授業は何回欠席しましたか。」の項目は低い数値となっており、改善の必要性がみられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けての取り組みとしては、これまでの授業改善の流れを踏襲しつつも、学生の主体的な取り組みによる主体的な学習方法を積極的に導入したい。また、学習課題を明確にして、具体的な実践教育に繋がる学びの内容を検討していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		スポーツ健康福祉学演習 I	8名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

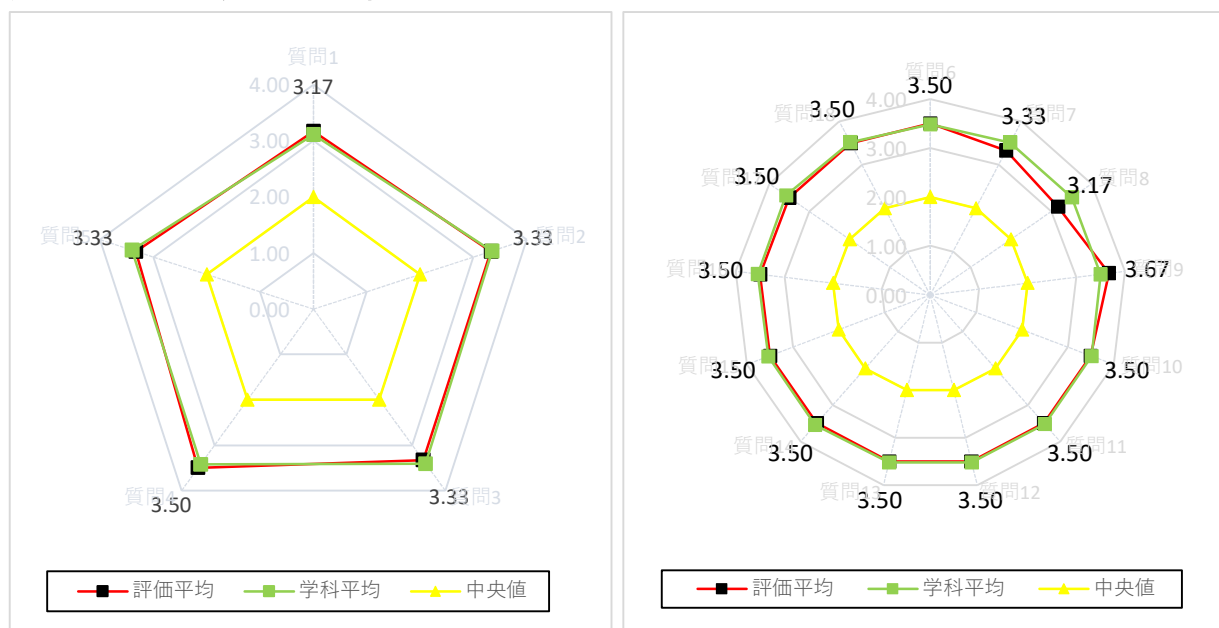
本科目は専門教育科目/学科専門科目/ゼミナール(必修科目)として、3年次に通年で開講しており、私が担当するゼミ生8名が履修した。
履修学生8名のうち7名から回答があり、ほぼすべての質問項目において学科平均を上回る結果となった。
授業内容・方法に関する質問項目11「教科書・配布資料等の活用」および教員の対応に関する質問項目16「双方向的なやり取り」は一定の評価を得たことから、学習の見通しを明示し、コミュニケーションを取りながら学修を進めることができていたと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

今年度の取り組みを継続していくとともに、今後も学生と十分に信頼関係を築きながら授業を進めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		スポーツ健康福祉学演習Ⅱ（含卒業研究）	7名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

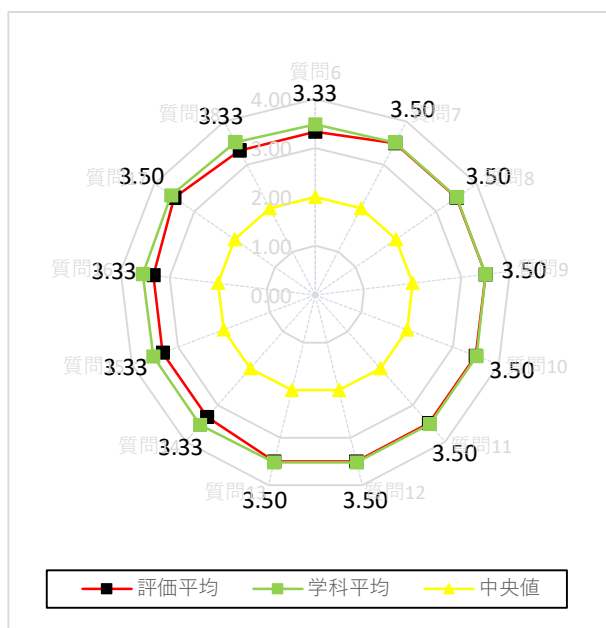
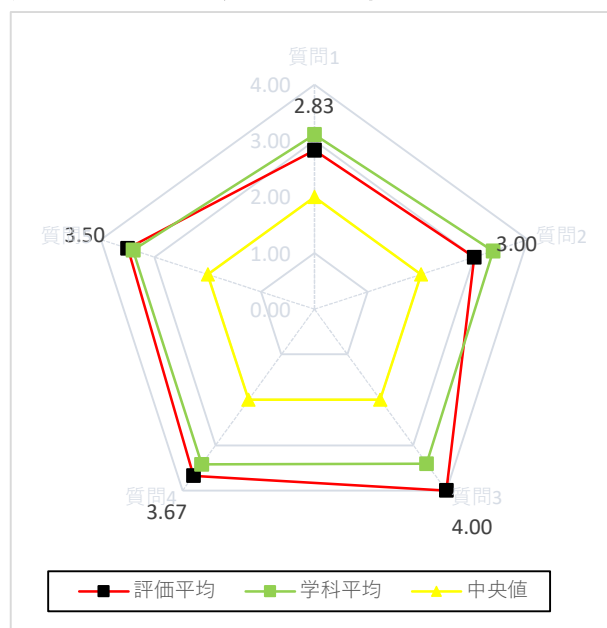
履修者6名全員の回答で、全ての項目において3.0以上の評価平均を得た。特に質問18の総合評価では3.50であったことから、まずまずの評価が得られたものと察する。質問1から6の学生自身の評価では2の評価である項目も一部あるが、1年間を通して学生自身も頑張ったと評価したい。また質問6以降の多くの項目では評価4または3の評価が得られたことで、こちらもある程度の良好な授業が展開できたものとする。

（３）次年度に向けての取り組み

次年度以降は授業を担当しないが、授業を通して私自身も毎年気づくことがあり学生一人一人に向き合った教育ができていたかを反省するとともに、改善努力の重要性を学んだ。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		発展ゼミナールⅡ	9名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

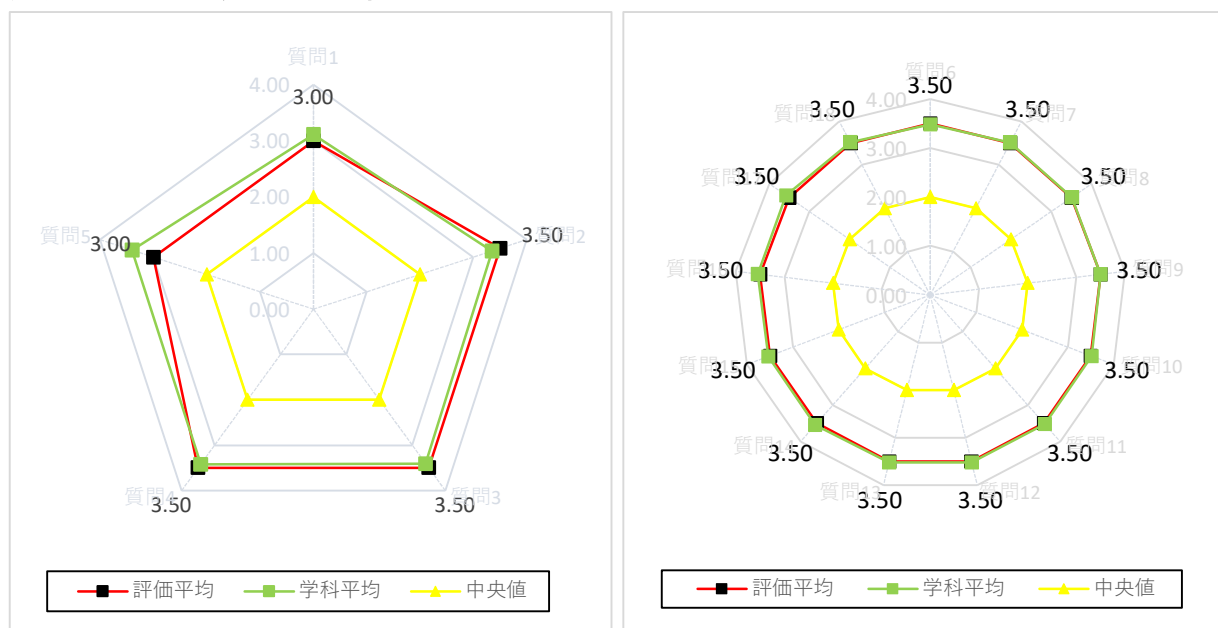
妥当な結果だと考えている。
引き続き、学生との連携をとつめていきたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

引き続き、学生との連携を重視し、学生の基礎力および応用力を向上させていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		発展ゼミナールⅡ	12名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

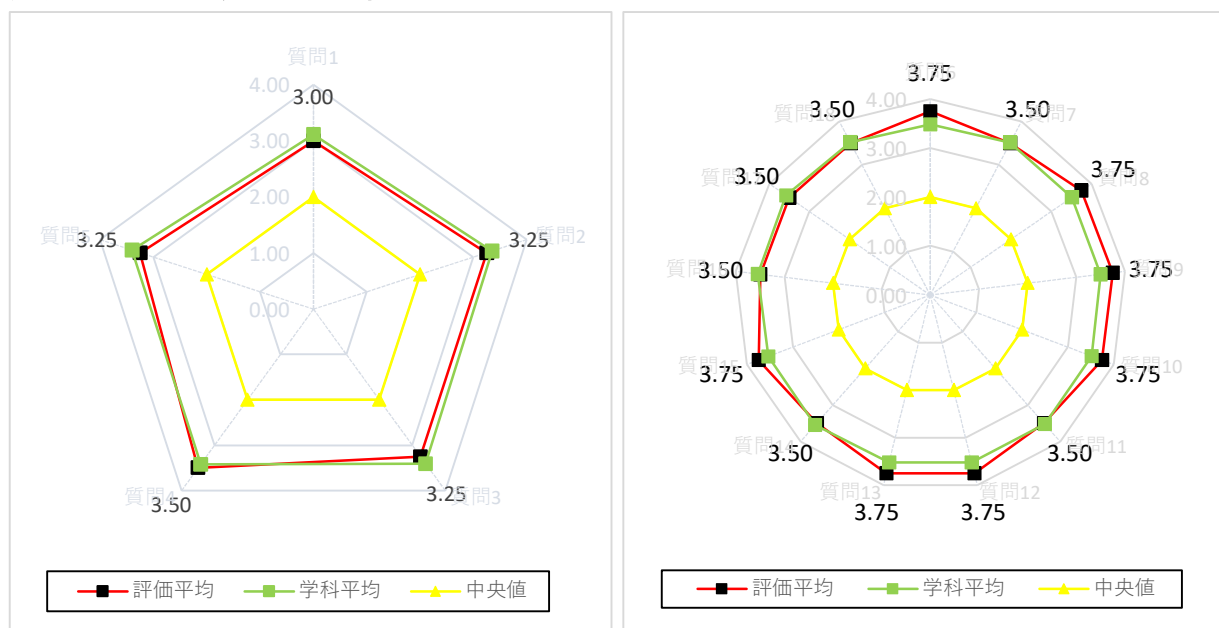
全体的な評価が、学科平均に対しやや低い傾向となっている。
 特に質問5「あなた自身の総合自己評価」3点であることから、講義全体の内容（シラバス）と各回の講義内容について精査を行い、学生の学修満足度、学習理解度を高める必要があると考える。
 また、質問6～12については、全体を通して3.5点であることから、上記の件も含め、改めて各項目に示される内容について、自身の講義スタイルも見直すきっかけとしたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

ゼミとして取り組む活動について、「社会的動向や要請」、「連携する実施主体の目的、想い」、「ゼミ活動としてのねらい」の3者の置き所を見直し、十分にリンクさせるとともに、受講生の中に落とし込んで主体的に活動できるような仕掛けを行いたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		発展ゼミナールⅡ	9名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

学科平均より低いものとして、質問1（欠席）、2（シラバス活用）、3（居眠り・私語等）、5（自己評価）であった。ゼミナールは受講生のテーマに沿って、事前学習、発表、意見交換という一連のプログラムを進めるため、主体性が高い授業であるが、平均より低い結果であったことは、主体性を高める働きかけや課題設定が不十分であったと考える。

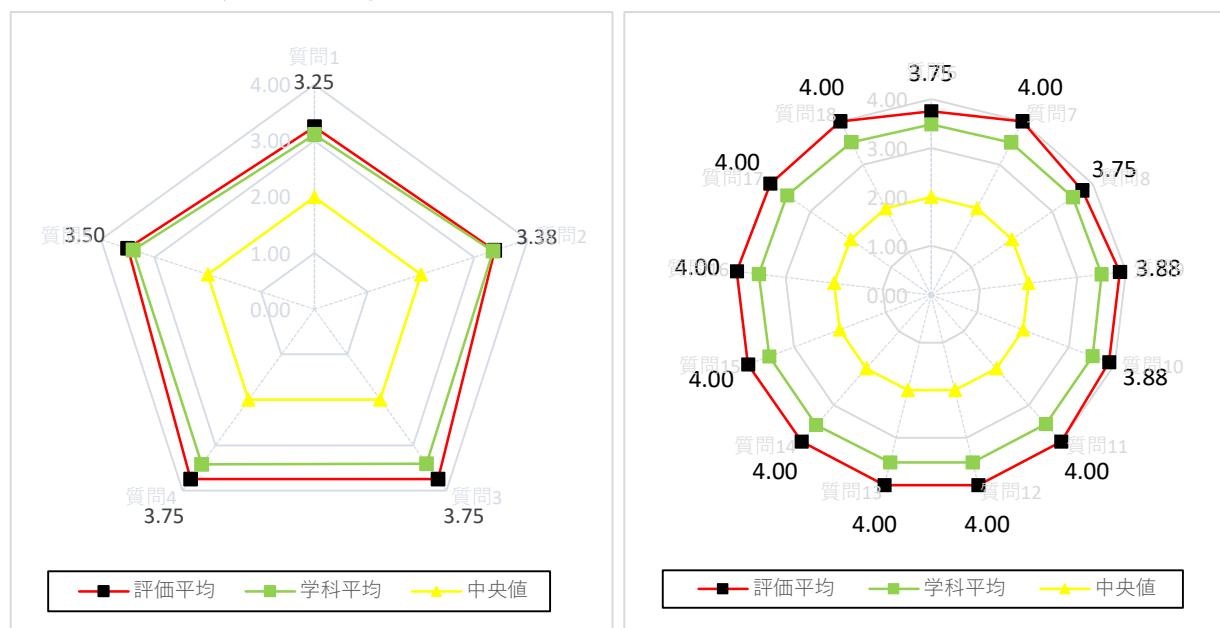
次は質問7（目標設定）、質問11（教科書、配布資料）質問14（学生の質問等に誠実に対応）、質問16（双方向的なやり取り）、質問17（教員は熱心に授業）、質問18（授業を総合評価）が学科平均より低かった。ゼミナールは卒業研究への取り組みであり、学生自身が主体的に取り組むべき科目であるため、主体性を高める働きかけの不十分さも影響しているのであろうか。一方で、授業以外に個別指導（テーマの選定、研究方法の決定、調査方法の手続き、資料の準備）を行ってきた指導状況を踏まえると、卒業研究という形式を重視するあまり、学生の主体性を奪った可能性も考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

同じメンバーを2026年度も担当するため、この結果を受けて、個別の課題設定、フィードバックの強化を行いたい。また放任にならないよう、しかし管理指導による主体性の低下を招かないよう留意したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		発展ゼミナールⅡ	10名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

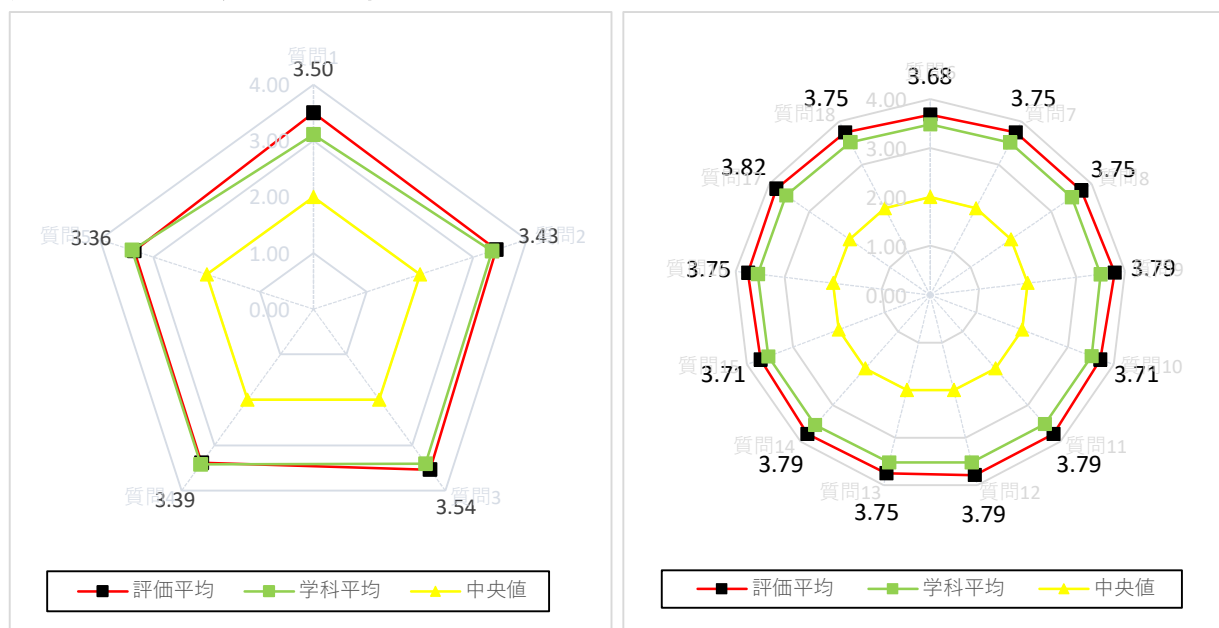
授業アンケート結果の分析と結果として、学科全体と比較しても高い評価を得ていた。具体的には、質問3「授業中に居眠り・私語等をせず真剣に取り組みましたか。」、質問4「あなたはこの授業を理解するために自分で何か工夫をしましたか。」、質問7「教員は授業の到達目標を明確にして、授業を展開していましたか。」、質問9「授業は分かりやすくする工夫がされていましたか。」、質問11「教科書・配布資料等は役に立ちましたか。」、質問12「声の大きさ・明瞭さ・話す速さは適切でしたか。」、質問13「授業の進む速さは適切でしたか。」、質問14「学生の質問等に誠実に対応しましたか。」、質問15「公平に学生に対応しましたか。」、質問16「教員は双方向的なやり取りをしながら、授業を行っていましたか。」、質問17「教員は熱心に授業に取り組んでいましたか。」、質問18「この授業を総合評価して下さい。」などの項目も学習の効果として高い数値となっていた。特にこれらの項目は主体的な学習・能動的な取り組みの結果であり、これまでの授業改善が効果的に影響したものと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けての取り組みとしては、これまでの授業改善の流れを踏襲しつつも、新たな取組としてアクティブラーニングの要素を取り入れたグループ学習を積極的に導入したい。また、学習課題を明確にして、具体的な福祉実践に繋がる学びの内容を検討していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		地域福祉論 I	36名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

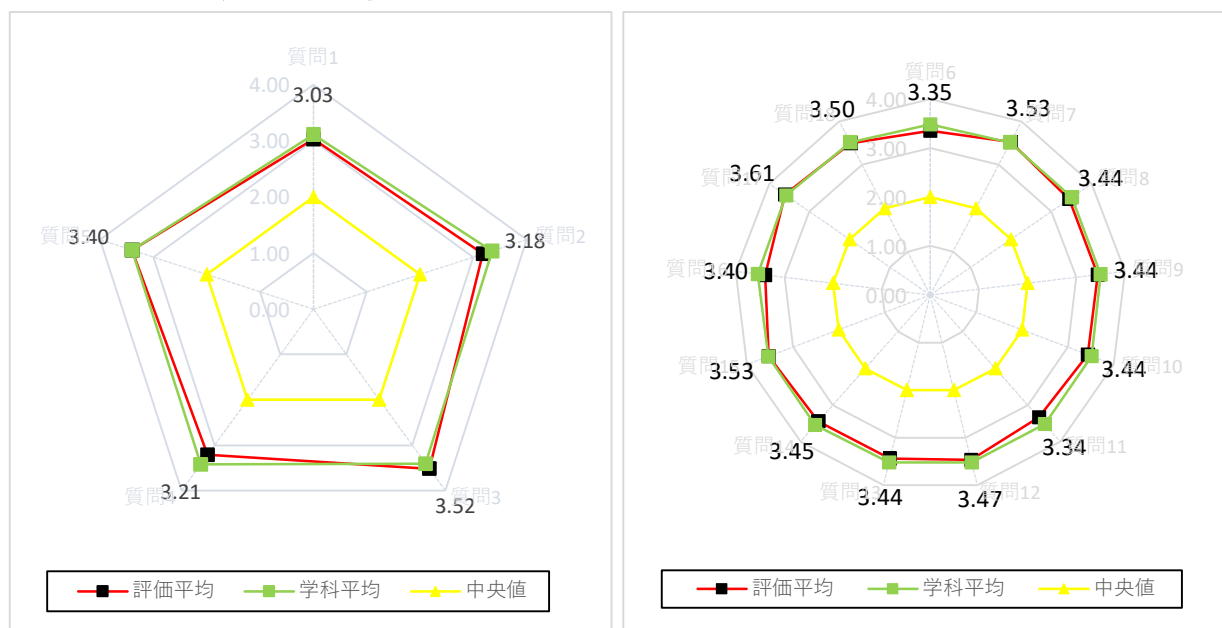
全体的な評価が、学科平均に対しやや上回る傾向となっている。
 しかし、質問5「あなた自身の総合自己評価」3.36点であることから、講義全体の内容（シラバス）と各回の講義内容について精査を行い、学生の学修満足度、学習理解度を高める必要があると考える。
 また、質問6～18については、全体を通して3.7点前後であることから、上記の件も含め、改めて各項目に示される内容について、自身の講義スタイルを見直すきっかけとしたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

講義資料について、配布資料＝投影資料として使っているため、投影用としては見にくい構成となっていることから、令和8年度からテキストを変更したことも併せ、見直してみる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		健康福祉概論	81名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

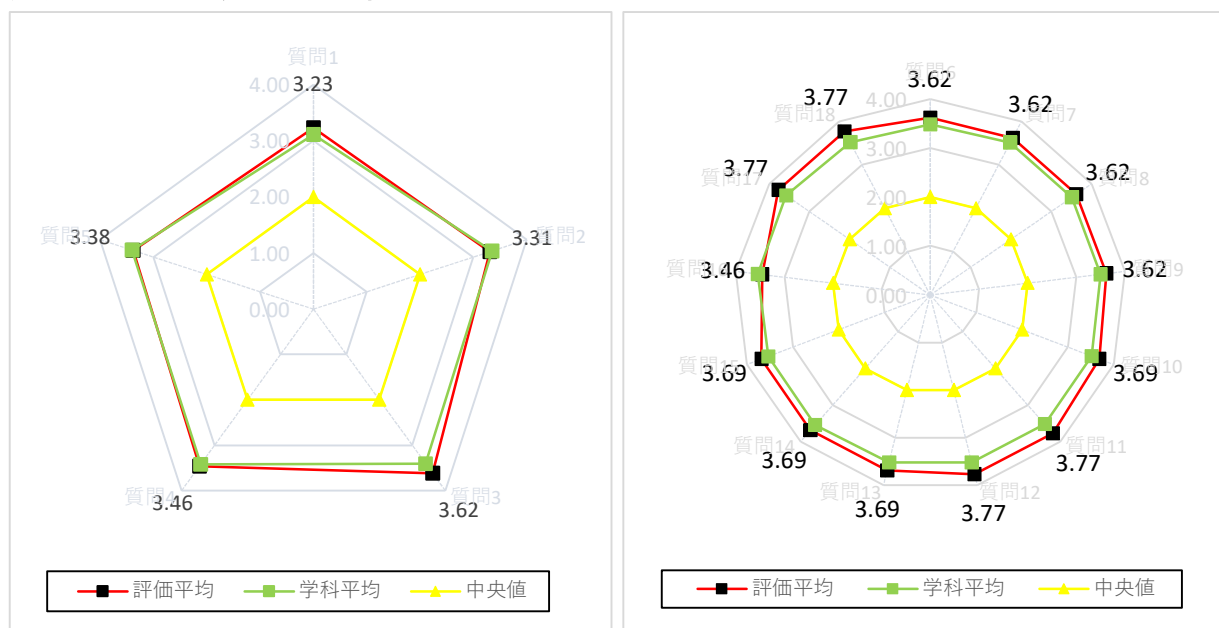
妥当な結果だと考えている。4名の教員がそれぞれの専門性を発揮した結果と理解している。

(3) 次年度に向けての取り組み

4名の教員が引き続き、連携して授業を進めていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		地域福祉論Ⅱ	35名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

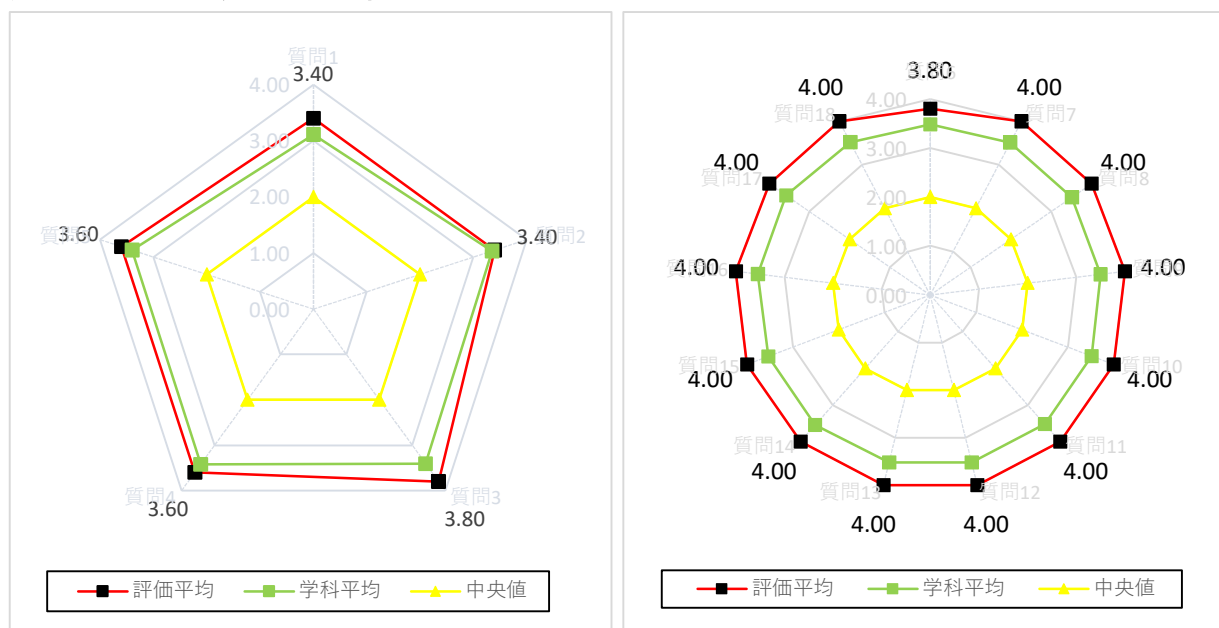
全体的な評価が、学科平均に対しやや上回る傾向となっている。
 特に質問5「あなた自身の総合自己評価」3.38点であることから、講義全体の内容（シラバス）と各回の講義内容について精査を行い、学生の学修満足度、学習理解度を高める必要があると考える。
 また、質問6～18については、全体を通して3.6点前後であることから、上記の件も含め、改めて各項目に示される内容について、自身の講義スタイルを見直すきっかけとしたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

4年後期に設定のある科目であるため、2月に控える国家試験対策も視野に講義内容を見直すとともに、それらを踏まえた受講生との双方向でのやり取りができるように改善を図りたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		発展ゼミナールⅠ	6名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

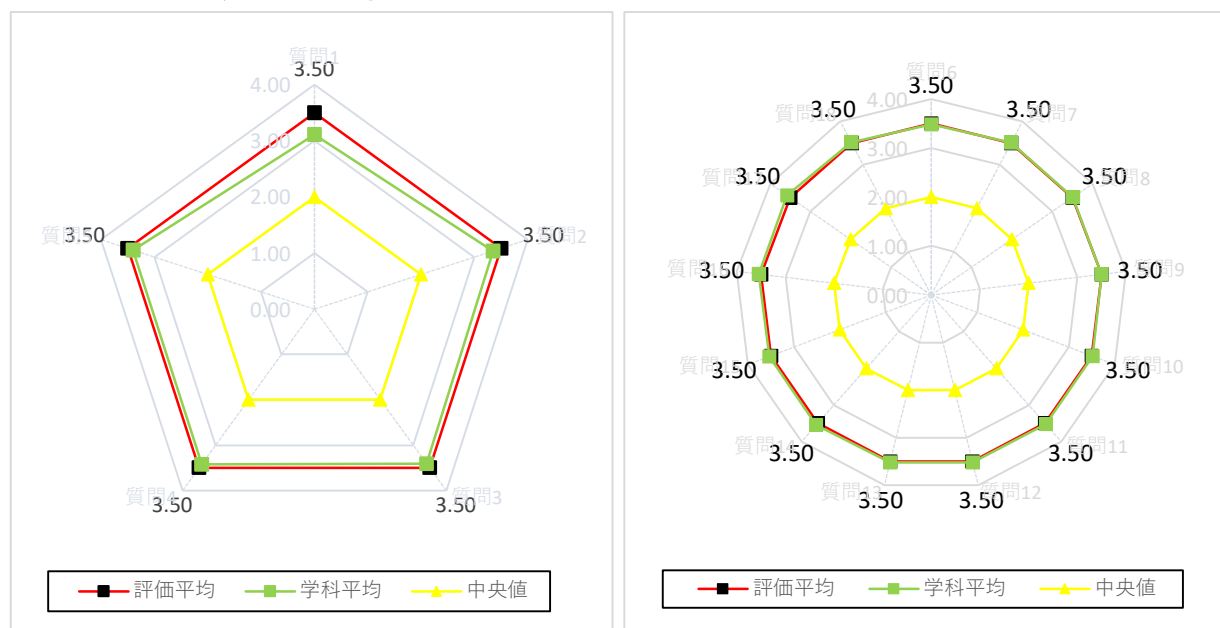
学生の相互協力もみられ全体の雰囲気も良好であった。その状況に対する評価として良い結果が出ている。

(3) 次年度に向けての取り組み

各学生との対話を重視することが、学習意欲につながっているため次年度も重視したい。また、より理解を深めるための教材も工夫したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		発展ゼミナールⅠ	7名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

質問1～5については学科平均と同等であった。一方で質問6～18までは学科平均をやや下回った。個別のシラバスを作成し説明、変更なく実施しているにもかかわらず、学科平均を下回る結果となった原因は不明である。質問8の「興味関心」についても「ゼミナール」のテーマとして後期には「自分の関心」をテーマとして設定し、ミニ研究を実施していくため、関心を持つテーマ設定ができなかったのか、そのプロセスに不満があったのか検討が必要と考える。

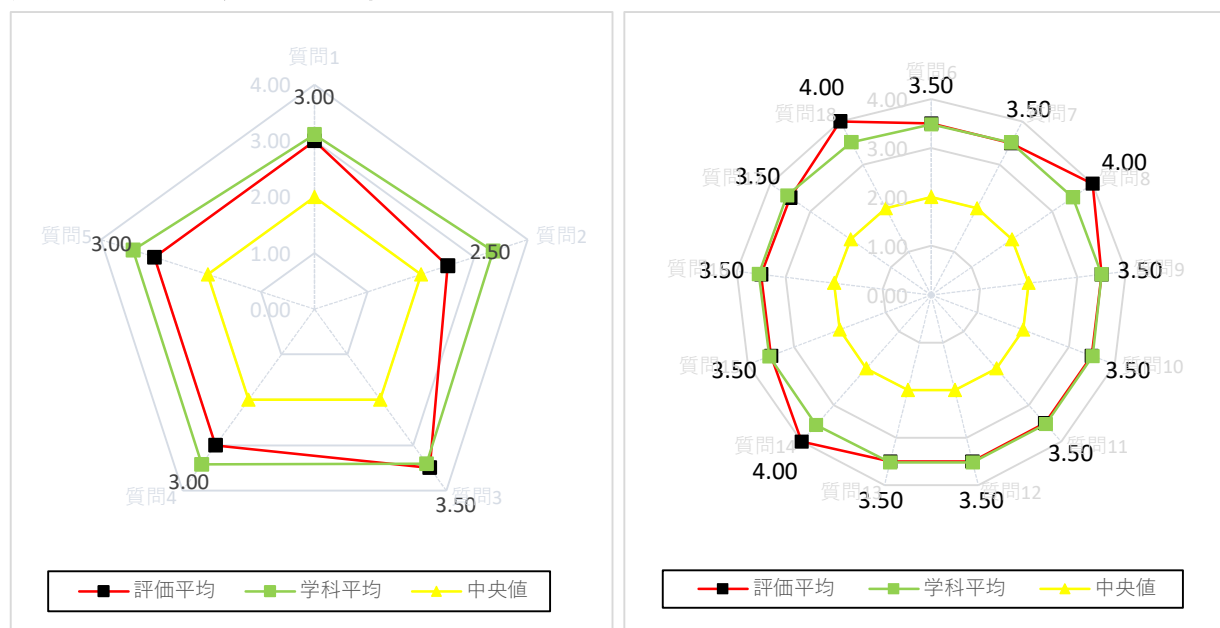
質問14～16についても、個別のテーマ設定および、個別指導で進める指導を導入しているが、平均点に至らなかった原因として形式だけではなく中身をさらに吟味しなくてはならないと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・ 毎回のシラバスの確認、目標の設定（2026年度は「問」の設定を工夫点として盛り込んだ）
- ・ 個別指導の実施および形式ではなく、学生の意向、学習課題を見出すような個別指導・面接の工夫

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		発展ゼミナール I	8名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

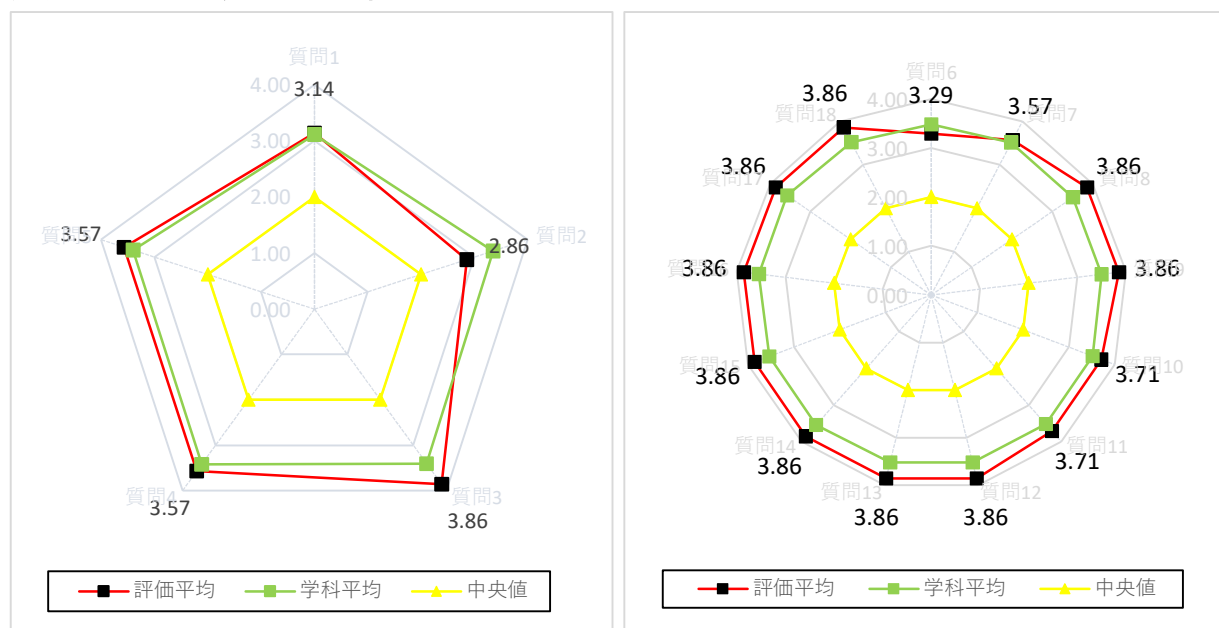
ゼミ生数が少ないため、数字に変化が出やすいことが指摘できるが、シラバスの活用について学生に指導していくことが必要とわかった。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生との授業内での連携について、強化していく所存である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		基礎ゼミナール	8名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

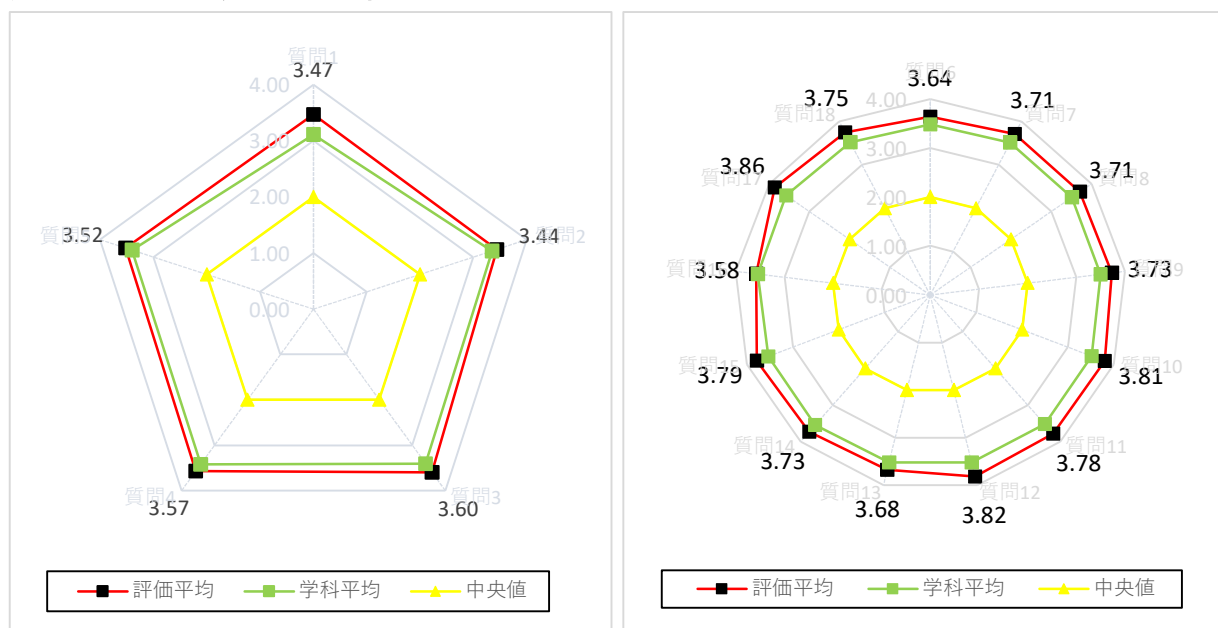
授業アンケート結果の分析と結果として、学科全体と比較しても高い評価を得ていた。具体的には、質問3「授業中に居眠り・私語等をせず真剣に取り組みましたか。」、質問8「授業は興味・関心が持てる工夫がされていたか。」、質問9「授業は分かりやすくする工夫がされていたか。」、質問12「声の大きさ・明瞭さ・話す速さは適切でしたか。」、質問13「授業の進む速さは適切でしたか。」、質問14「学生の質問等に誠実に対応しましたか。」、質問15「公平に学生に対応しましたか。」、質問16「教員は双方向的なやり取りをしながら、授業を行っていましたか。」、質問18「この授業を総合評価して下さい。」などの項目も学習の効果として高い数値となっていた。特にこれらの項目は主体的な学習・能動的な取り組みの結果であり、これまでの授業改善が効果的に影響したものと考えられる。しかしながらその一方で、質問2「シラバス（授業計画）を活用しましたか。」、質問6「シラバス（授業計画）について説明がありましたか。」などの項目は低い数値となっており、改善の必要性がみられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けての取り組みとしては、これまでの授業改善の流れを踏襲しつつも、新たな取組としてアクティブラーニングの要素を取り入れたグループ学習を積極的に導入したい。また、学習課題を明確にして、具体的な福祉実践に繋がる学びの内容を検討していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部 子ども学部	社会福祉 スポーツ健康福祉 心理カウンセリング		人体の構造と機能及び疾病Ⅱ	101名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

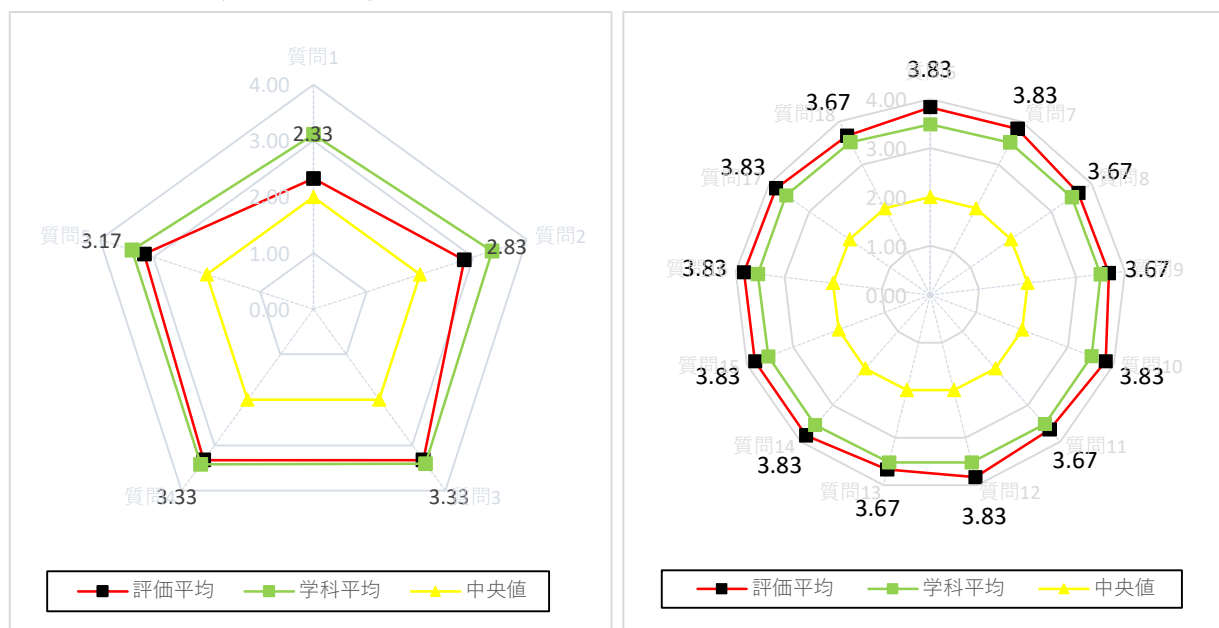
オンライン授業にて、対面とは異なり表情等の反応で習熟度を確認することが難しいが、定期試験の点数や授業評価では概ね良い結果であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

一定数の外国人留学生にも理解しやすいよう、発声（トーン等）や説明内容、スライドの工夫をさらに行う必要がある。学生の興味・関心が高まるための教授方法を検討したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		公衆衛生学	14名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

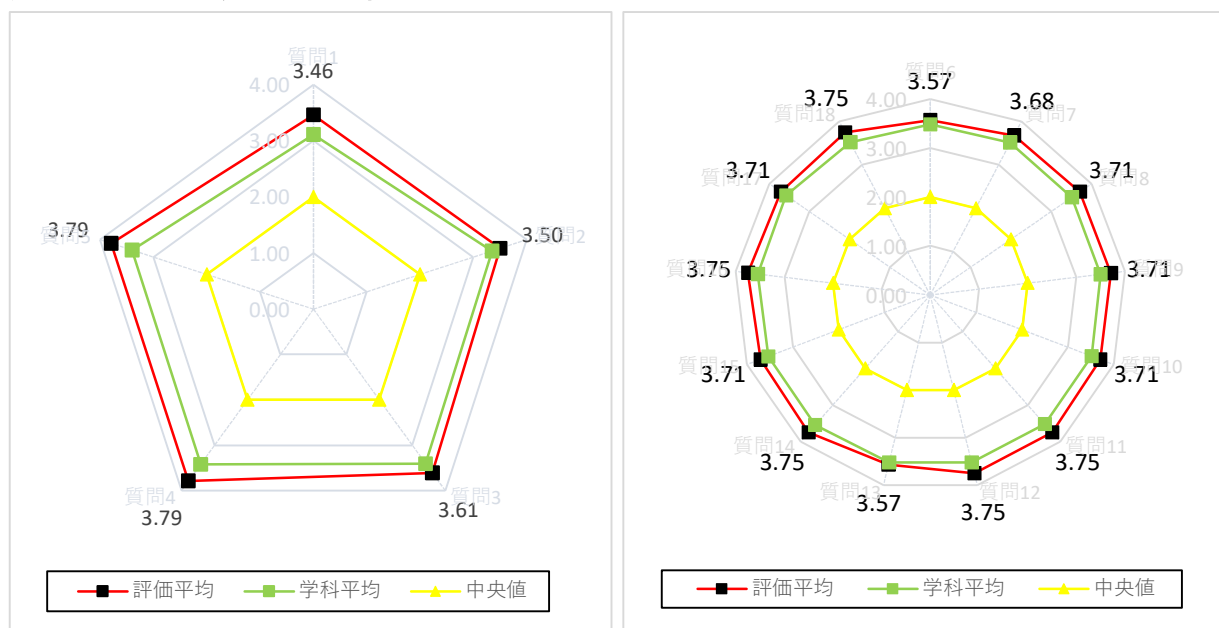
質問1出席率・質問2 シラバス（授業計画）の活用が学科平均を下回っていた。他は学科平均と同等あるいは上回っていた。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生に講義に出席するよう促す。
シラバスの活用を積極的に行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		生涯発達心理学	70名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

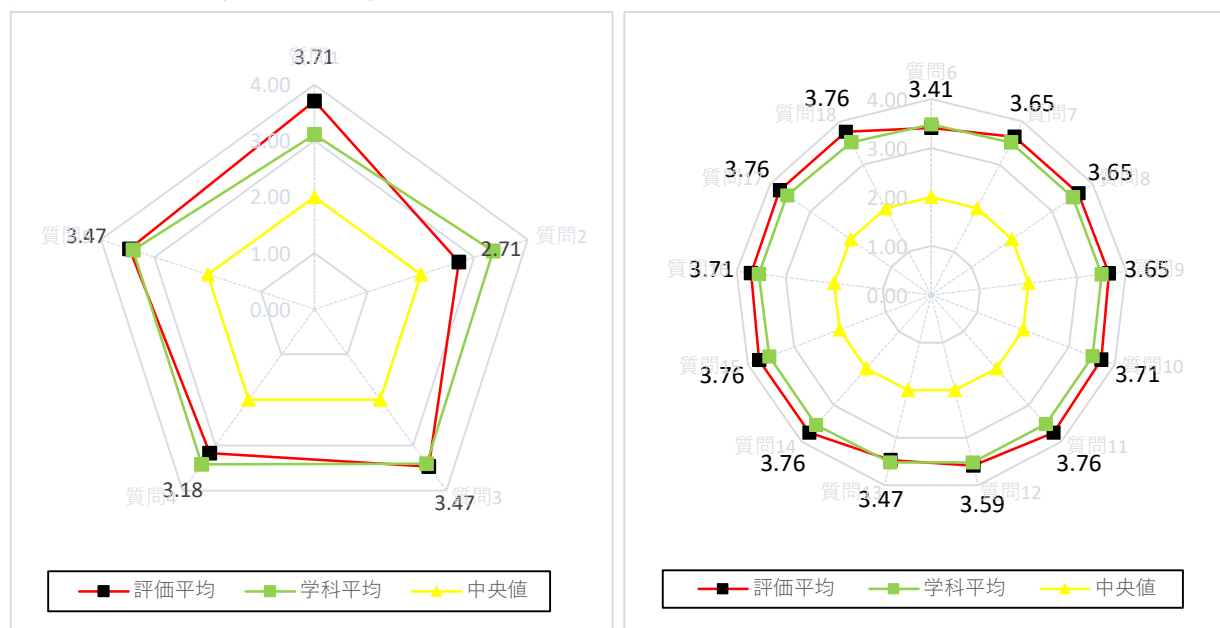
本授業「生涯発達心理学」の授業評価平均得点は、全18項目において学科平均を一貫して上回っており、特に「授業内容の理解しやすさ」「興味・関心の喚起」「学習意欲の向上」「総合的満足度」に関する項目で高い評価が得られた。これは、具体的事例や臨床現場の実践を交えた講義構成、学生の生活や将来像に結びつけた説明、双方向性を意識した問いかけが、学生の理解促進と主体的な学びにつながった結果と考えられる。一方で、評価が比較的安定して高い一方、さらなる学習深化や個々の理解度差への対応については、今後一層工夫の余地があると捉えている。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、これまでの高評価を維持・発展させるとともに、理解の深化と応用力の育成を重視した授業改善に取り組む。具体的には、臨床心理学の知識をスポーツ・健康・福祉現場と結びつけるミニケース検討や短時間のペア・グループワークをより計画的に導入し、学生が自ら考え言語化する機会を増やす。また、授業内での要点整理や振り返りを充実させ、理解度の差に配慮した補足説明や資料提示を行うことで、初学者にも安心して学べる授業環境を整えたい。これにより、専門知識の定着と実践的理解の両立を目指していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		保健医療論	39名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

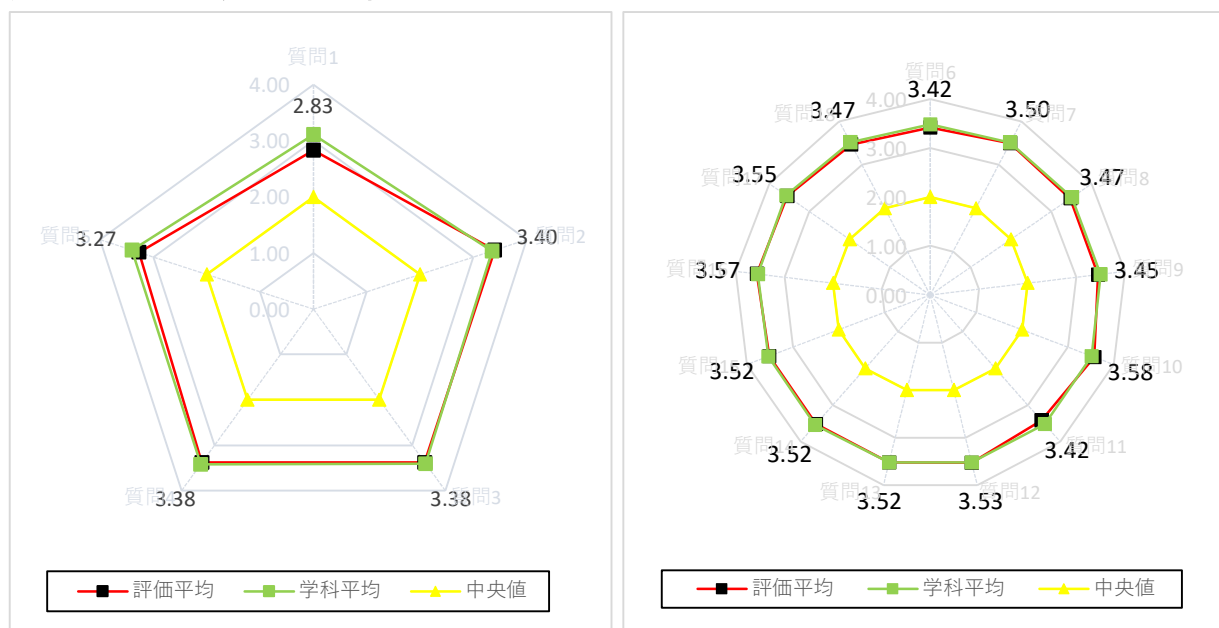
授業アンケート結果の分析・評価については、全体的に学科平均程度であり、さらに改善する必要がみられた。特に質問2「シラバス（授業計画）を活用しましたか。」、質問3「授業中に居眠り・私語等をせず真剣に取り組みましたか。」、質問4「あなたはこの授業を理解するために自分で何か工夫をしましたか。」、質問6「シラバス（授業計画）について説明がありましたか。」、質問12「声の大きさ・明瞭さ・話す速さは適切でしたか。」、質問13「授業の進む速さは適切でしたか。」などの評価が低く、教員の働きかけが十分ではなく、授業や学習課題に対して総体的に取り組むことができていないことがわかる。これらの傾向は前年度と同様の傾向であり、学習方法・課題の設定と進度との関係性を見直す必要がある。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けての取り組みとしては、学習内容の整理を行い体験的な内容を多く取り入れる。また、主体的に取り組みながら段階的に学習することができるようなシラバス構成を検討していくこととする。さらに、アクティブラーニングの要素を取り入れたグループ学習を積極的に導入したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		障害の理解	87名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

概ね順調と理解している。

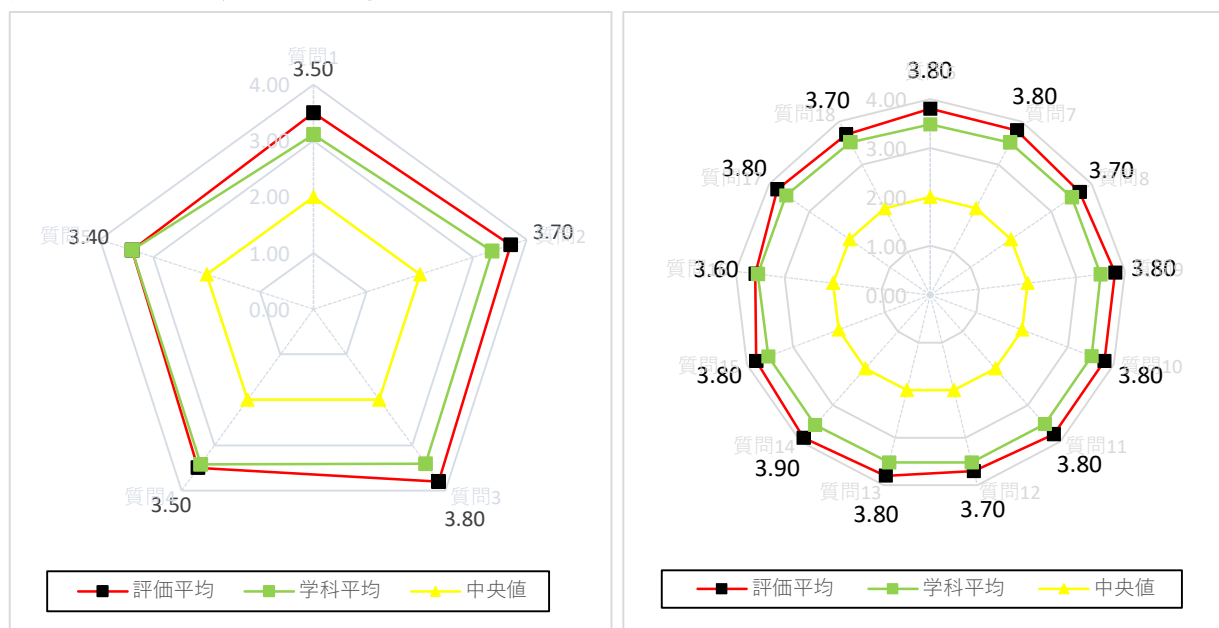
後期の1限ということで、欠席が寒い日に多かったのは、学生にも負担をかけたと理解してる。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業内容については、妥当性があると考えているので、引き続き努力していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		権利擁護を支える法制度	31名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

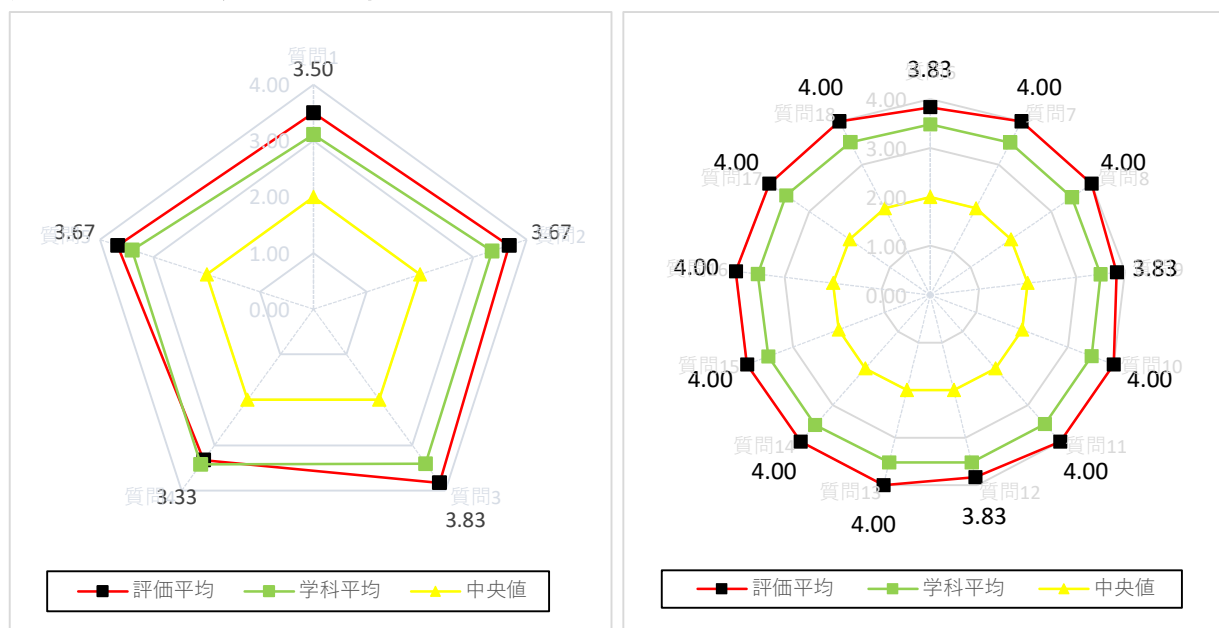
全体的な評価が、学科平均に対しやや上回る傾向となっている。
特に質問5「あなた自身の総合自己評価」3.4点であることから、講義全体の内容（シラバス）と各回の講義内容について精査を行い、学生の学修満足度、学習理解度を高める必要があると考える。
また、質問6～18については、全体を通して3.7点前後であることから、上記の件も含め、改めて各項目に示される内容について、自身の講義スタイルを見直すきっかけとしたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

受講生との双方向の講義展開を目指して、講義内容にミニ・ワーク等を取り入れる等の工夫を試みたい。
また、法改正に対応した講義内容についてもできるように修正を図りたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		ソーシャルワーク演習Ⅳ	15名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

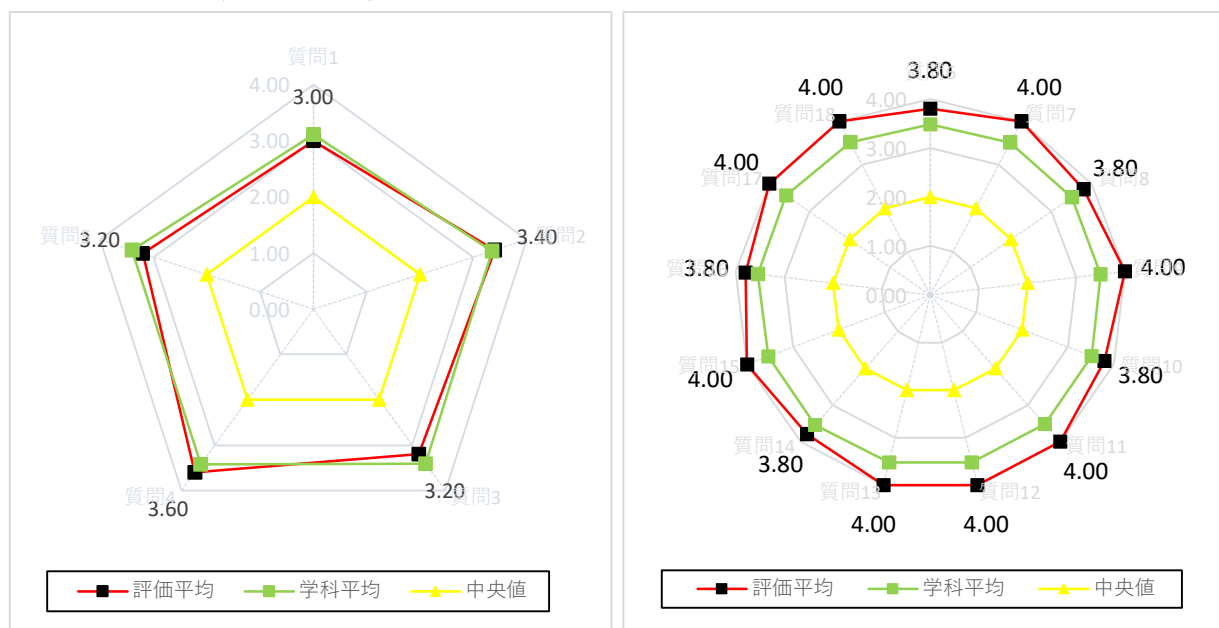
授業アンケート結果の分析と結果として、学科全体と比較しても高い評価を得ていた。具体的には、質問2「シラバス（授業計画）を活用しましたか。」、質問3「授業中に居眠り・私語等をせず真剣に取り組みましたか。」、質問7「教員は授業の到達目標を明確にして、授業を展開していましたか。」、質問8「授業は興味・関心が持てる工夫がされていましたか。」、質問10「視聴覚機器や板書の使い方は適切でしたか。」、質問11「教科書・配布資料等は役に立ちましたか。」、質問13「授業の進む速さは適切でしたか。」、質問14「学生の質問等に誠実に対応しましたか。」、質問15「公平に学生に対応しましたか。」、質問16「教員は双方向的なやり取りをしながら、授業を行っていましたか。」などの項目も学習の効果として高い数値となっていた。特にこれらの項目は主体的な学習・能動的な取り組みの結果であり、これまでの授業改善が効果的に影響したものと考えられる。しかしながらその一方で、質問4「あなたはこの授業を理解するために自分で何か工夫をしましたか。」の項目は低い数値となっており、改善の必要性がみられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けての取り組みとしては、これまでの授業改善の流れを踏襲しつつも、新たな取組としてアクティブラーニングの要素を取り入れたグループ学習を積極的に導入したい。また、学習課題を明確にして、具体的な福祉実践に繋がる学びの内容を検討していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		ソーシャルワーク演習Ⅴ	15名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

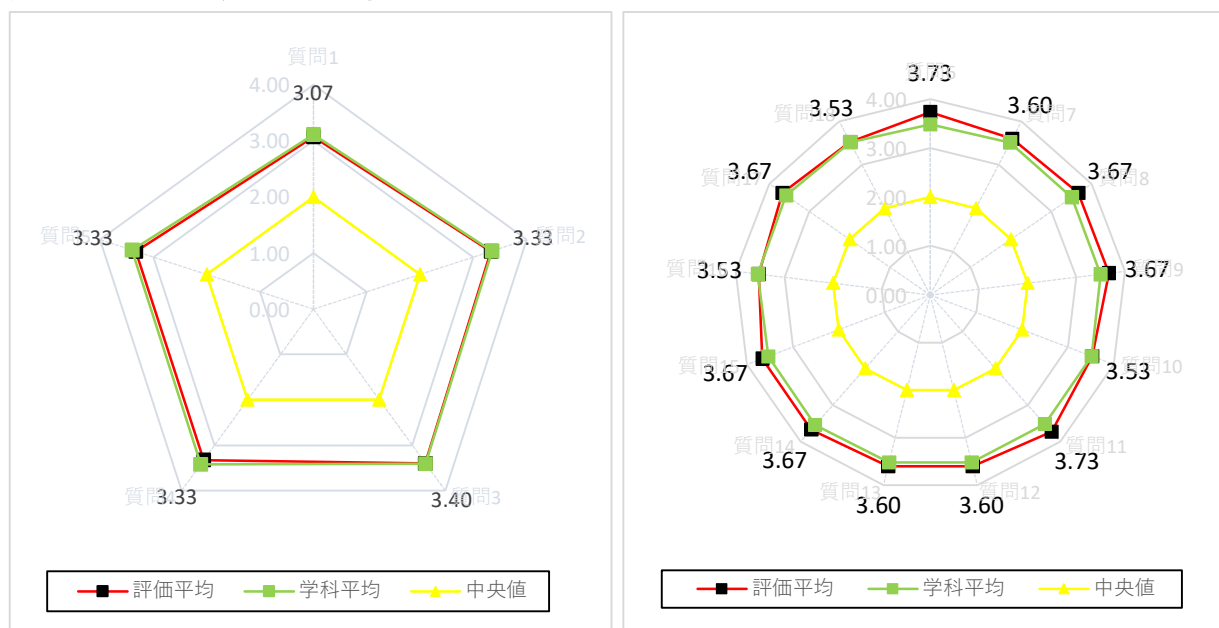
全体的な評価が、学科平均に対しやや上回る傾向となっている。
 しかし、質問1～5の項目は学科平均を下回る内容もあり、受講生の修学意欲を引き出す必要があると考える。
 また演習という性質上、質問6～18については、全体を通して高い評価であることから、上記の件も含め、講義の展開方法について見直すきっかけとしたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

講義－演習－実習の3者での学修内容が循環できるように連携を図り、改善を検討したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		ソーシャルワーク演習Ⅴ	15名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

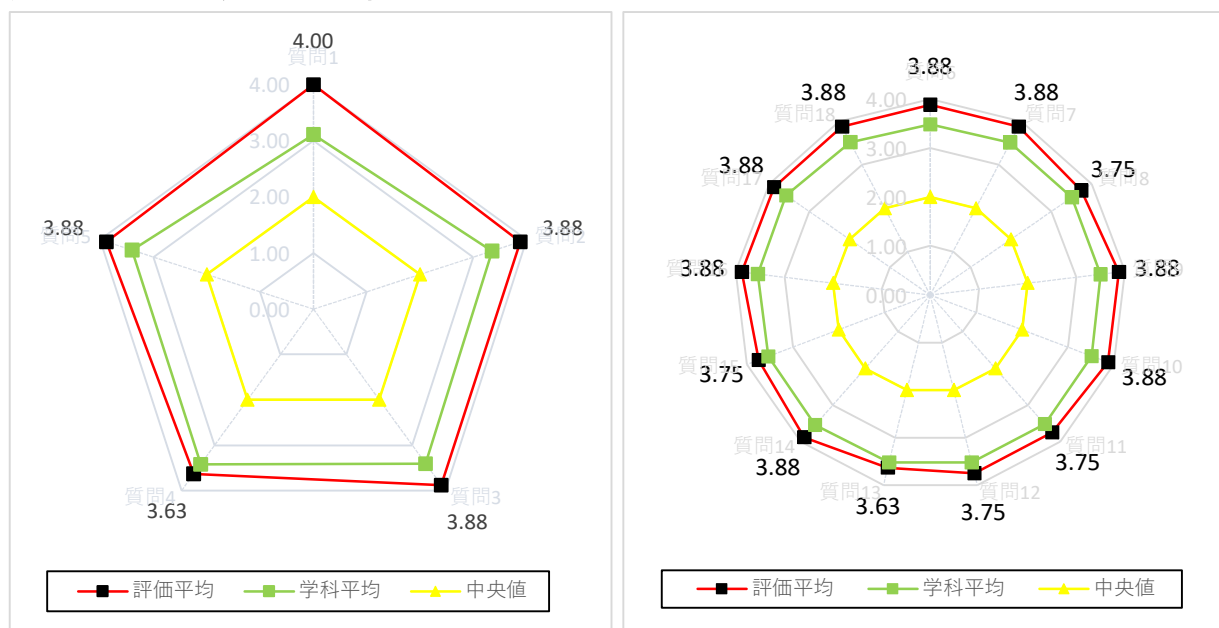
授業アンケート結果の分析・評価については、全体的に学科平均を下回り、改善する必要性がみられた。特に質問1「授業は何回欠席しましたか。」、質問2「シラバス（授業計画）を活用しましたか。」、質問3「授業中に居眠り・私語等をせず真剣に取り組みましたか。」、質問4「あなたはこの授業を理解するために自分で何か工夫をしましたか。」、質問5「あなた自身の総合自己評価」、質問7「教員は授業の到達目標を明確にして、授業を展開していましたか。」、質問10「視聴覚機器や板書の用い方は適切でしたか。」、質問12「声の大きさ・明瞭さ・話す速さは適切でしたか。」、質問13「授業の進む速さは適切でしたか。」、質問16「教員は双方向的なやり取りをしながら、授業を行っていましたか。」、質問17「教員は熱心に授業に取り組んでいましたか。」、質問18「この授業を総合評価して下さい。」などの評価が低く、教員の働きかけが十分ではなく、授業や学習課題に対して総体的に取り組むことができていないことがわかる。これらの傾向は同学年の科目と同様の傾向であり、学習年次に応じた学習方法・課題の設定と進捗との関係性を見直す必要がある。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けての取り組みとしては、学習内容の整理を行い体験的な内容を多く取り入れる。また、主体的に取り組みながら段階的に学習することができるようなシラバス構成を検討していくこととする。さらに、アクティブラーニングの要素を取り入れたグループ学習を積極的に導入したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	30名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

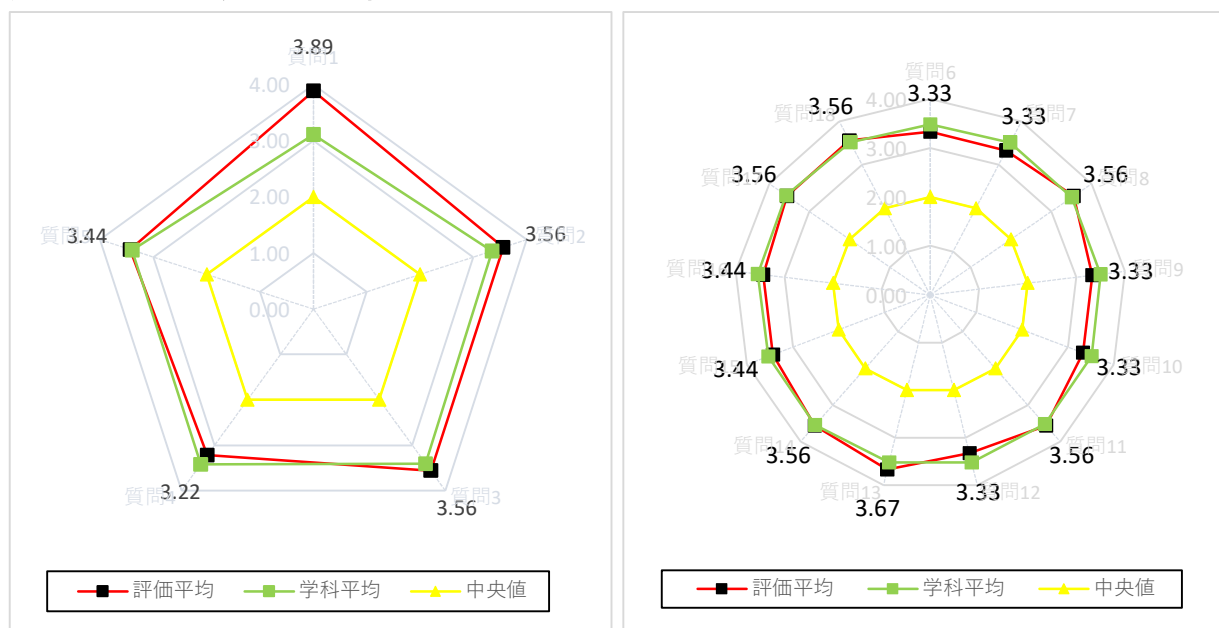
全体的な評価が、学科平均に対しやや高い傾向となっている。
 特に質問4～5は学科平均より高いことから、講義全体の内容（シラバス）と各回の講義内容について精査を行い、今後も学生の学修満足度、学習理解度を高めるよう工夫を継続していきたい。
 また、質問6～18については、全体を通して3.8点前後であることから、上記の件も含め、改めて各項目に示される内容について、講義に関わる教員の講義スタイルを見直すきっかけとしたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

講義－演習－実習の3者での学修内容が循環できるように連携を図り、改善を検討したい。
 また、オムニバス形式での講義であるため、教員間の連携をしっかりと図っていききたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	31名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

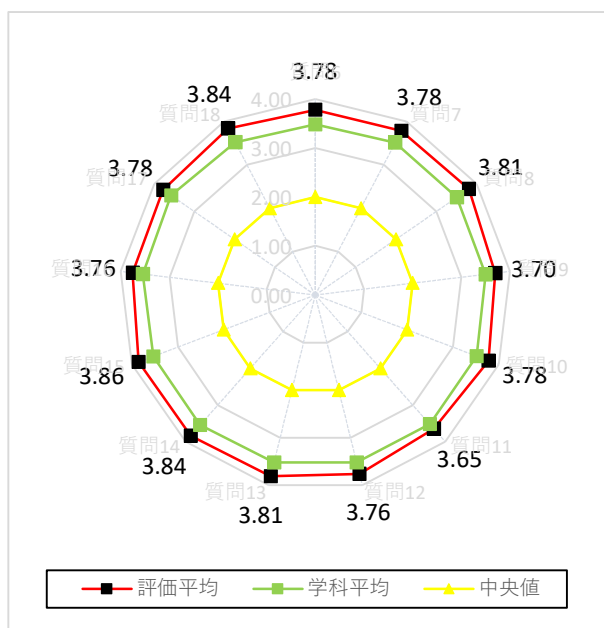
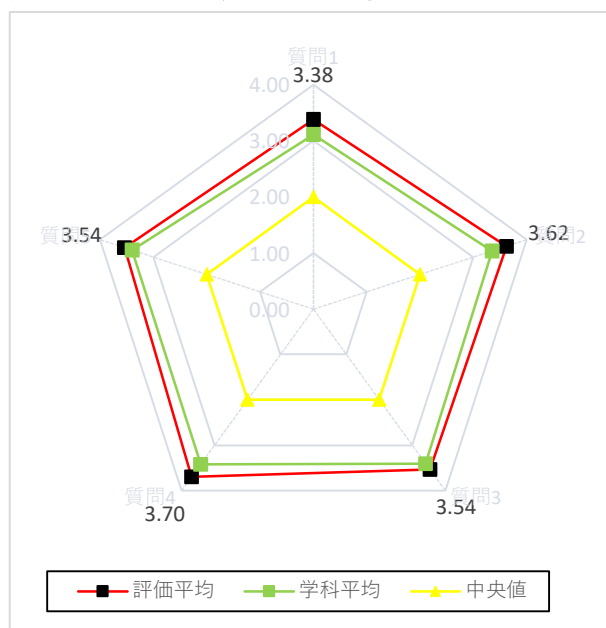
全体的な評価が、学科平均に対しやや低い傾向となっている。
 しかし、質問4～5は学科平均より高いことから、講義全体の内容（シラバス）と各回の講義内容について精査を行い、今後も学生の学修満足度、学習理解度を高めるよう工夫を継続していきたい。
 また、質問6～18については、全体を通して学科平均より低いことから、各項目に示される内容について、講義に関わる教員の講義スタイルを見直すきっかけとしたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

講義－演習－実習の3者での学修内容が循環できるように連携を図り、改善を検討したい。
 また、オムニバス形式での講義であるため、教員間の連携をしっかりと図っていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		ソーシャルワークの基盤 と専門職Ⅱ	53名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

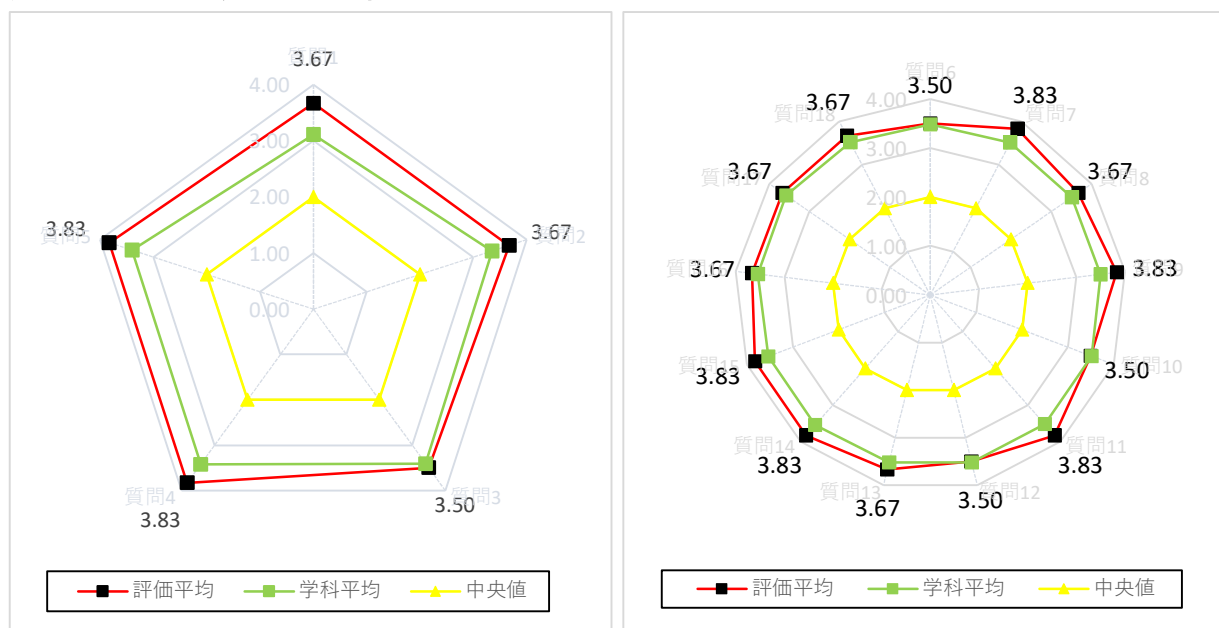
順調な結果と理解している。
予習資料、当日資料の配布をTEAMSを使って引き続き行っていく。

(3) 次年度に向けての取り組み

今年度と同様に、学生との意見交換をしながら授業を進めていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		ソーシャルワーク実習Ⅰ	26名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

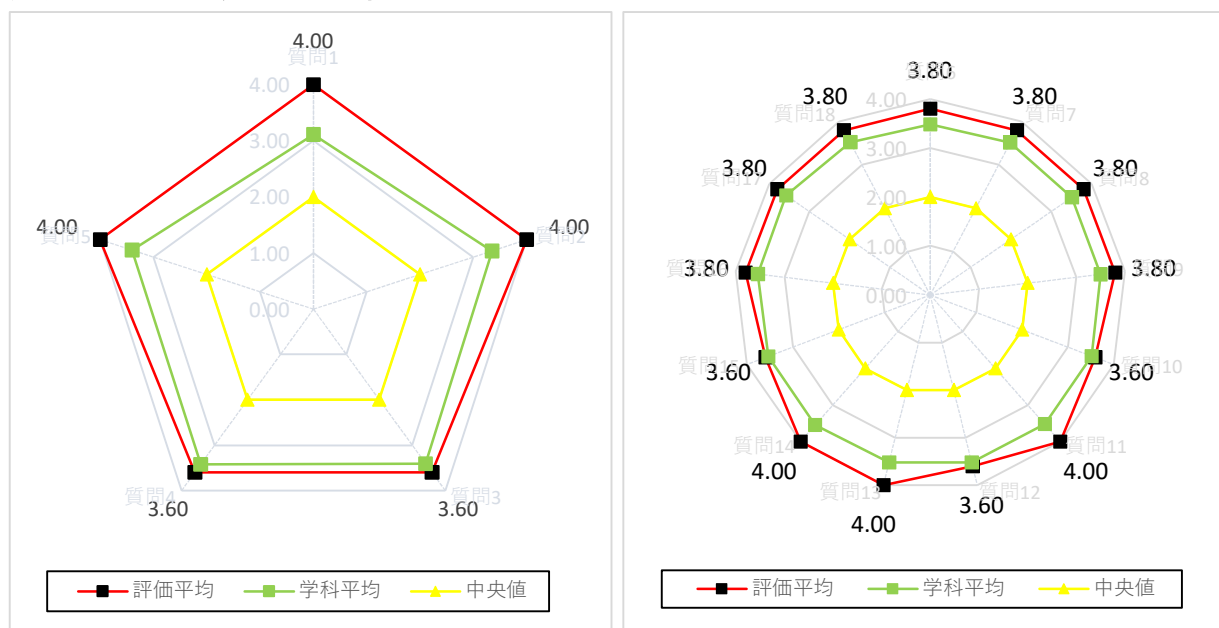
実習施設で取り組む「ソーシャルワーク実習」に関する講義のため、各項目の評価は実習生個々の実習施設によって対応が変わってくる部分があると考えられる。
 しかしながら、質問5（総合自己評価）等が高い点数であるため、今後も実習施設（実習指導者）との連携を行っていききたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

実習生（受講者）－実習施設（実習指導者）－科目担当教員の3者での学修内容が循環できるように連携を図り、改善を検討したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		ソーシャルワーク実習Ⅱ	18名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

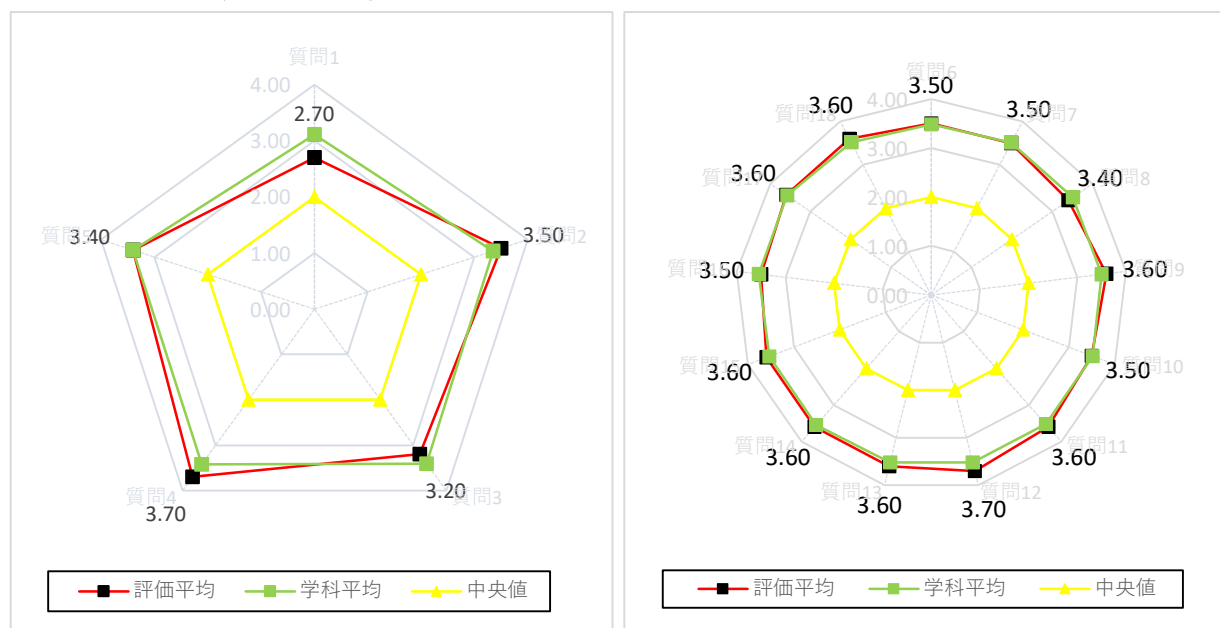
実習施設で取り組む「ソーシャルワーク実習」に関する講義のため、各項目の評価は実習生個々の実習施設によって対応が変わってくる部分があると考えられる。
 しかしながら、質問5（総合自己評価）等が高い点数であるため、今後も実習施設（実習指導者）との連携を行っていききたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

実習生（受講者）－実習施設（実習指導者）－科目担当教員の3者での学修内容が循環できるように連携を図り、改善を検討したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		運動生理学演習	15名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

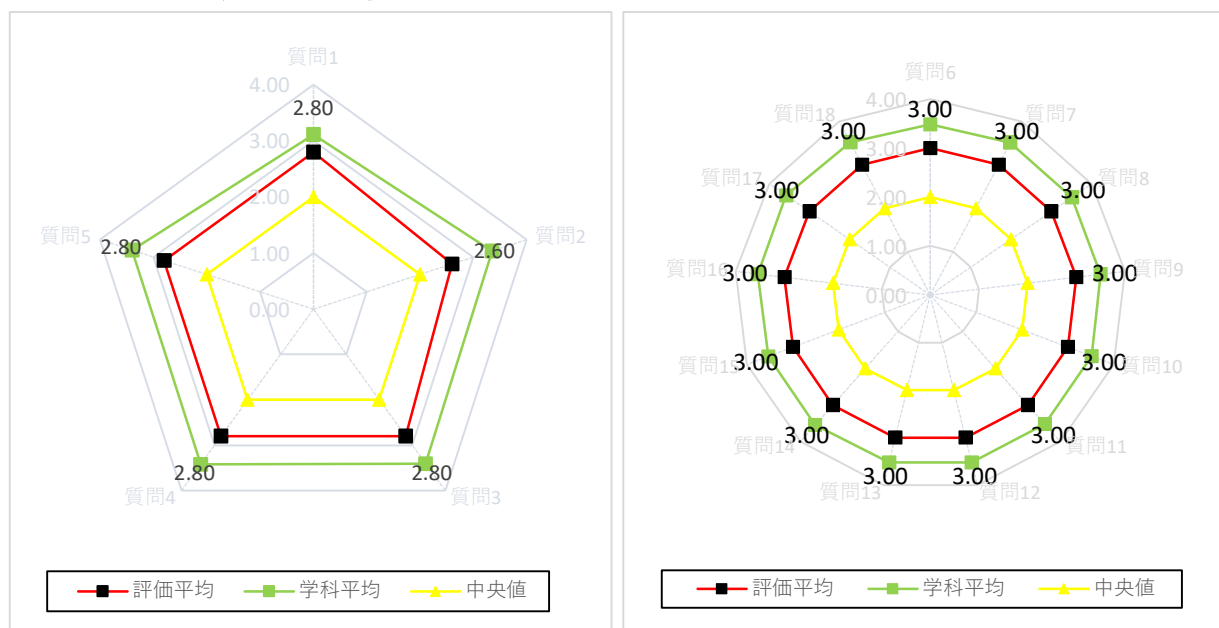
本科目は専門教育科目/学科専門科目/健康スポーツに関する科目/基礎科目(選択科目)として、3年次の後期に開講しており15名の学生が履修した。履修学生15名のうち10名から回答があり、ほぼすべての質問項目において学科平均値と同程度、または若干下回る評価を得た。ただし、授業内容・方法に関する項目の質問9「分かりやすくする工夫」、および質問12「声の大きさ・明瞭さ・話す速さ」は学科平均を上回る評価であったことから、授業に対する教員の姿勢は一定の評価を得たものと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

昨年度に準じた取り組みを実施しつつ、さらに学生の参加度や意欲を引き出す働きかけを行っていきたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		ソーシャルワーク演習Ⅱ	6名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

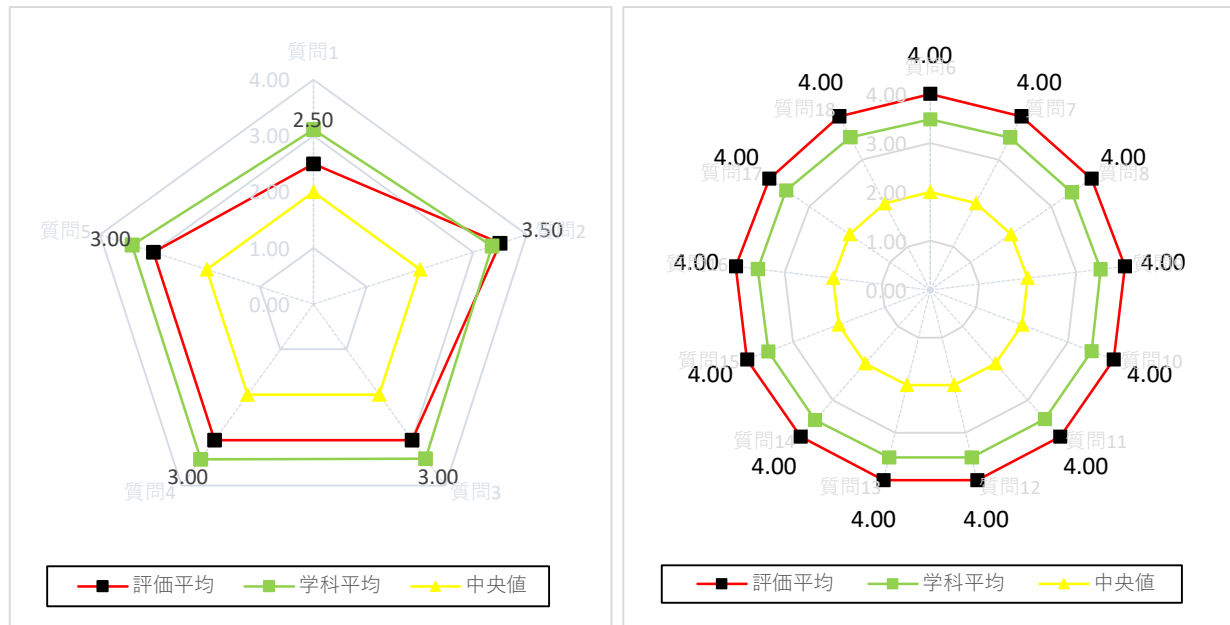
全体的な評価が、学科平均に対し低い傾向となっている。
特に質問1～5については3点以下であることから、講義全体の内容（シラバス）と各回の講義内容について精査を行い、学生の学修満足度、学習理解度を高める必要があると考える。
また、質問6～18については、全体を通して3点であることから、上記の件も含め、改めて各項目に示される内容について、自身の講義スタイルを見直すきっかけとしたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

演習内容や講義方法について見直すとともに、講義－演習－実習の3者での学修内容が循環できるように連携を図り、改善を検討したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		ソーシャルワーク演習Ⅱ	4名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

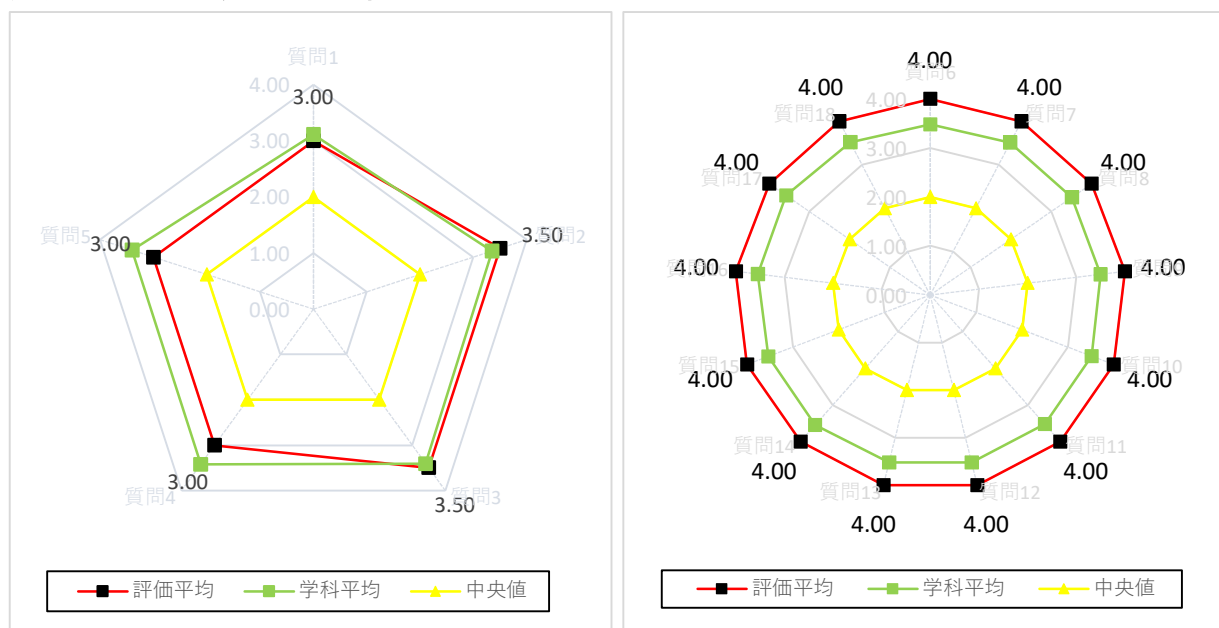
4名という人数のため、閣下に偏りが出るのは致し方ないことと理解しているが、引き続き演習支援を行なっていく。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は担当がないが、この結果を活かしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		ソーシャルワーク演習Ⅲ	4名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

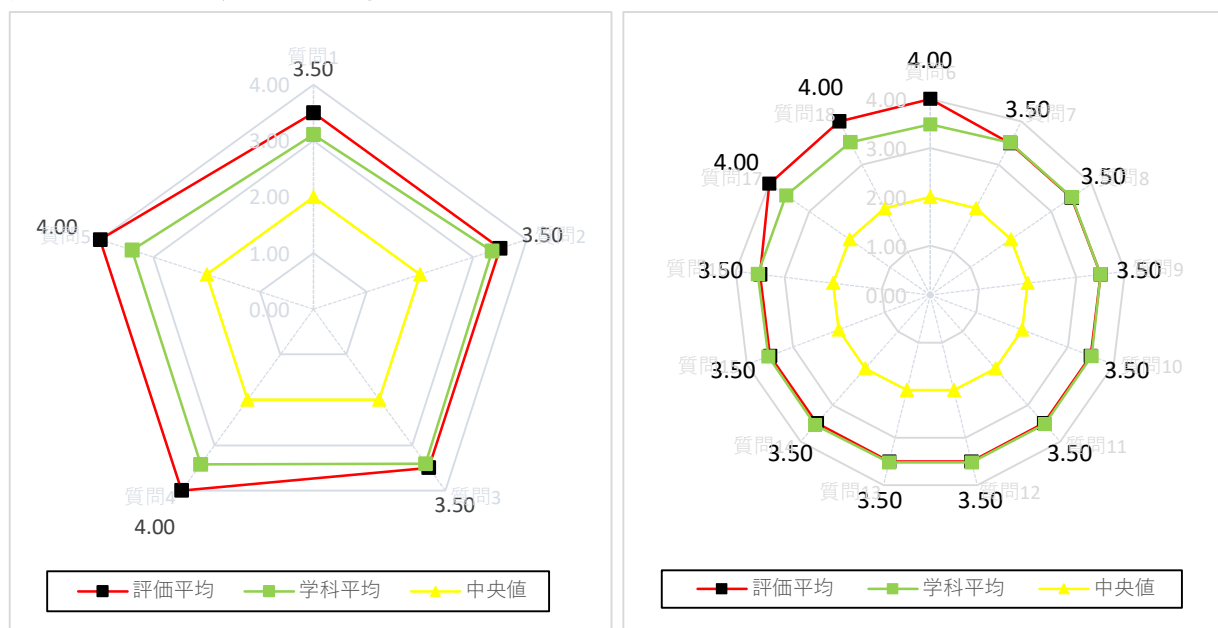
全体的な評価が、学科平均に対し高い傾向となっている。
 特に質問4～5は3点であることから、講義全体の内容（シラバス）と各回の講義内容について精査を行い、学生の学修満足度、学習理解度を高める必要があると考える。
 また、質問6～18については、全体を通して4点であることから、上記の件も含め、改めて各項目に示される内容と関連付けて、自身の講義スタイルを見直すきっかけとしたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

今年度の分析・評価での内容を見直し、講義－演習－実習の3者での学修内容が循環できるように連携を図り、改善を検討したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		ソーシャルワーク演習Ⅲ	8名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

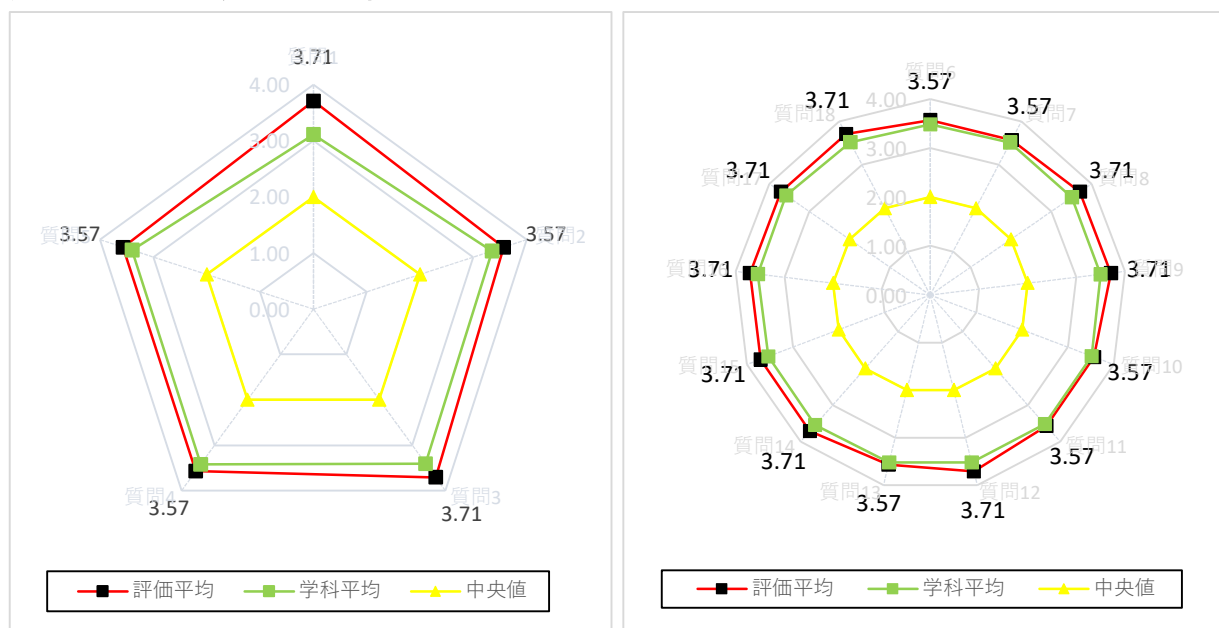
全体的な評価が、学科平均に対しやや高い傾向となっている。
 特に質問4～5は4点であることから、講義全体の内容（シラバス）と各回の講義内容について精査を行い、今後も学生の学修満足度、学習理解度を高めるよう工夫を継続していきたい。
 また、質問6～18については、全体を通して3.5点であることから、上記の件も含め、改めて各項目に示される内容について、自身の講義スタイルを見直すきっかけとしたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

講義－演習－実習の3者での学修内容が循環できるように連携を図り、改善を検討したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		ソーシャルワーク演習Ⅲ	14名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

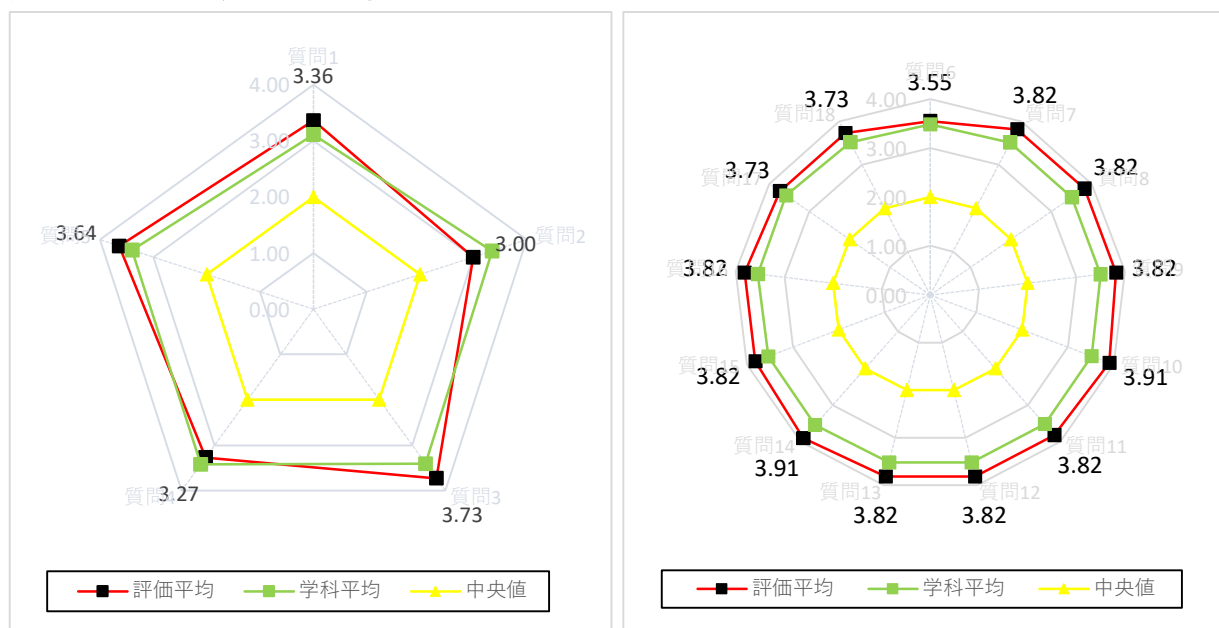
全体的な評価が、学科平均に対しやや高い傾向となっている。
特に質問1～5は学科平均より高い傾向であることから、講義全体の内容（シラバス）と各回の講義内容について精査を行い、今後も学生の学修満足度、学習理解度を高めるよう工夫を継続していきたい。
また、質問6～18については、全体を通して3.7点前後であることから、上記の件も含め、改めて各項目に示される内容について、自身の講義スタイルを見直すきっかけとしたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

講義－演習－実習の3者での学修内容が循環できるように連携を図り、改善を検討したい。
また、受講年度の次年度にソーシャルワーク実習を実施する学生もいるため、事前学習としても、学習内容についてしっかり落とし込みを行いたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		ソーシャルワーク演習Ⅰ	14名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

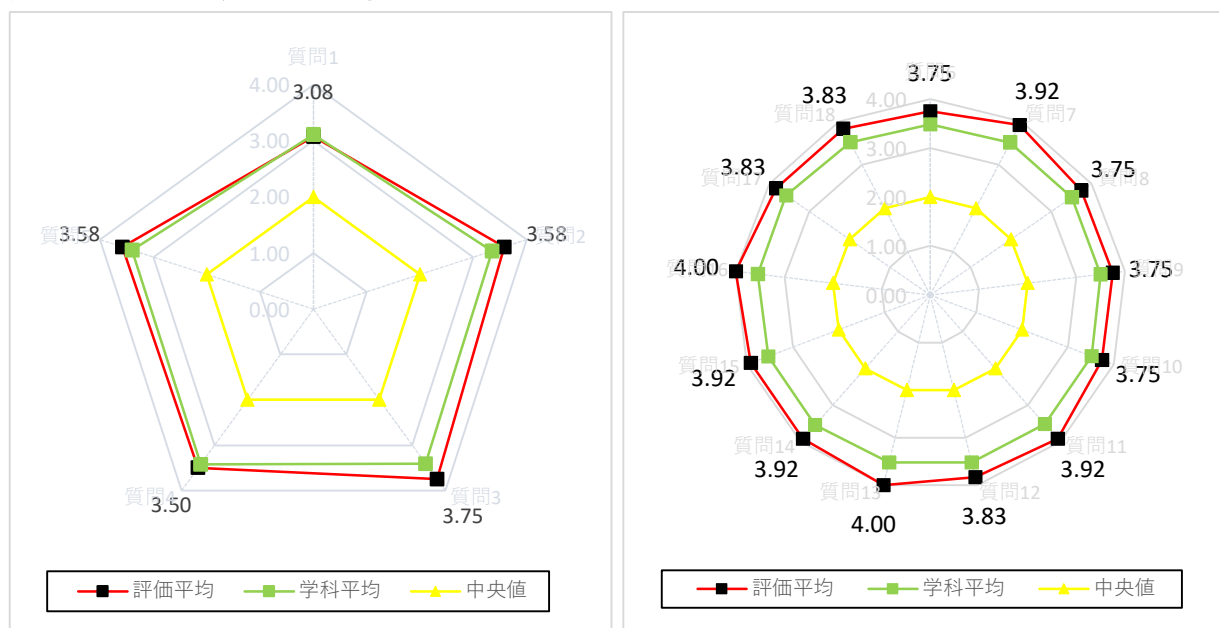
全体的な評価が、学科平均に対しやや高い傾向となっている。
 特に質問5は4点であることから、講義全体の内容（シラバス）と各回の講義内容について精査を行い、今後も学生の学修満足度、学習理解度を高めるよう工夫を継続していきたい。
 また、質問6～18については、全体を通して3.8点前後であることから、上記の件も含め、改めて各項目に示される内容について、自身の講義スタイルを見直すきっかけとしたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

講義－演習－実習の3者での学修内容が循環できるように連携を図り、改善を検討したい。
 また、資格取得や専門職のイメージができるよう、学習内容についてしっかり落とし込みを行いたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		ソーシャルワーク演習 I	15名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

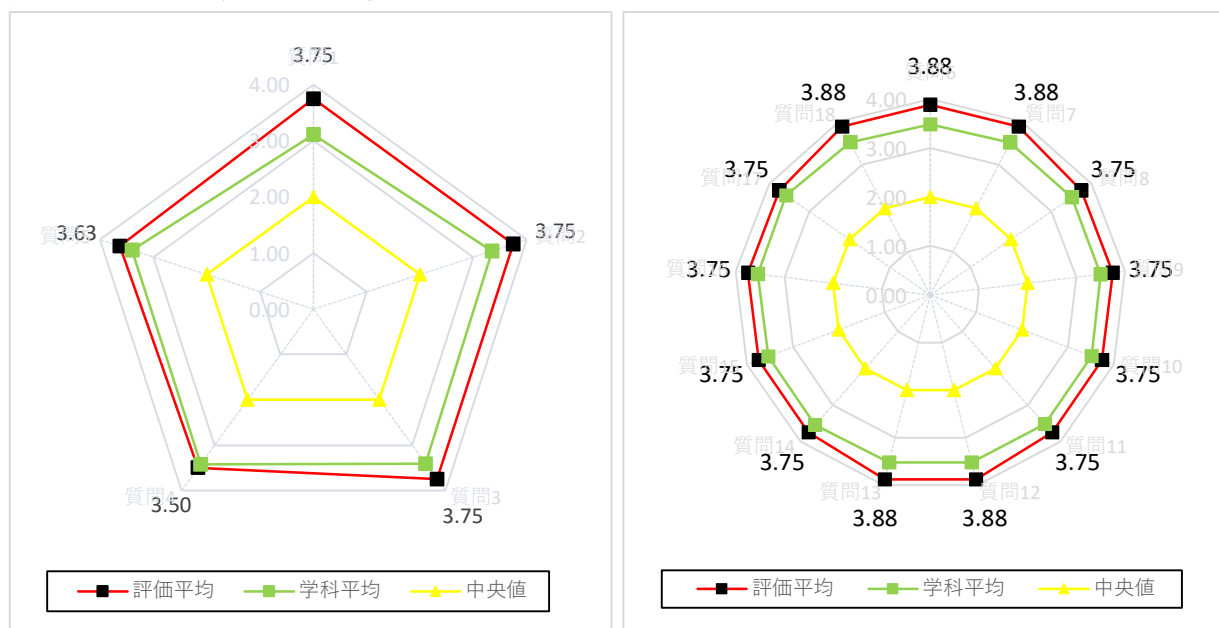
適切に対処することができていると考えている。
特に、初めて大学で演習を行う1回生に対してなので、妥当性があると考えている。

(3) 次年度に向けての取り組み

今年度と同様、1回生の大学での不安を解消できるように、演習を組み立てていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	28名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

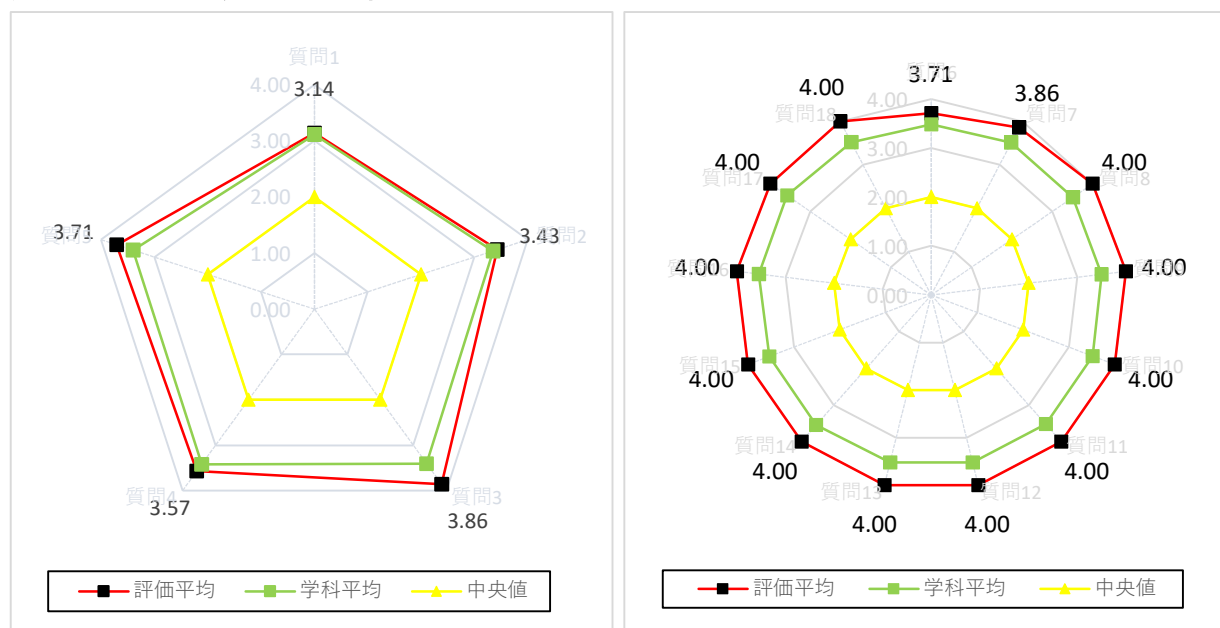
全体的な評価が、学科平均に対しやや高い傾向となっている。
 特に質問1～は学科平均よりも高いことから、講義全体の内容（シラバス）と各回の講義内容について精査を行い、今後も学生の学修満足度、学習理解度を高めるよう工夫を継続していきたい。
 また、質問6～18については、全体を通して3.8点前後であることから、上記の件も含め、改めて各項目に示される内容について、講義を受け持つ教員の講義スタイルを見直すきっかけとしたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

講義－演習－実習の3者での学修内容が循環できるように連携を図り、改善を検討したい。
 また、オムニバス形式の講義であるため、教員間の連携をしっかりと図っていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		ソーシャルワークの理論と方法（専門）Ⅰ	16名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

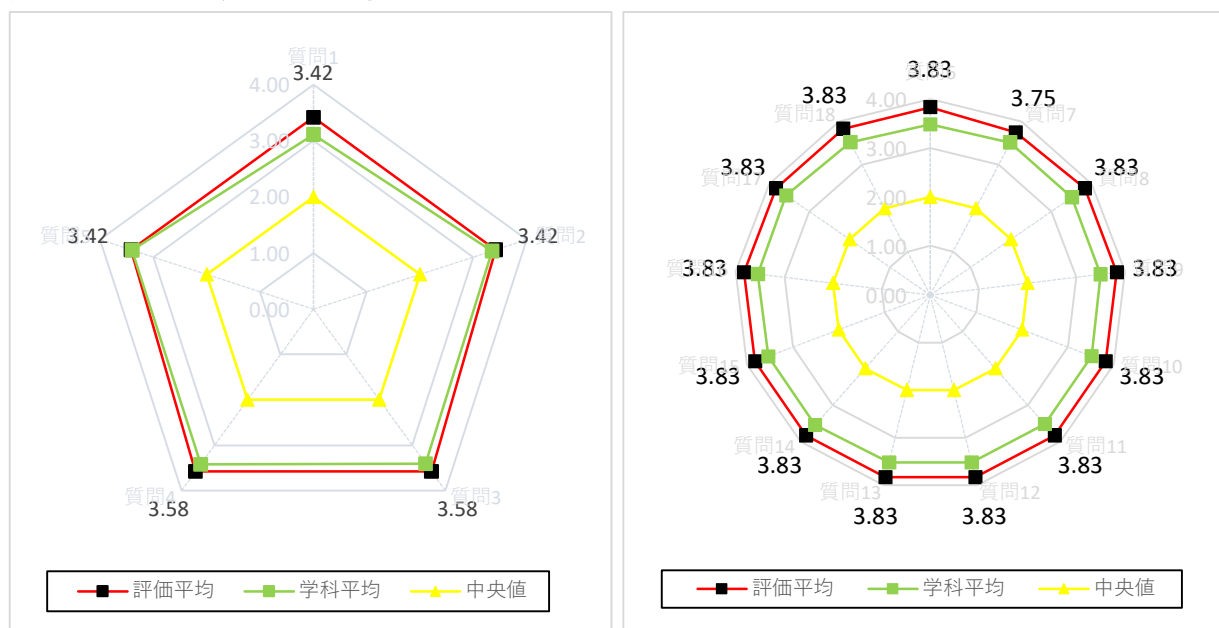
授業アンケート結果の分析と結果として、学科全体と比較しても高い評価を得ていた。具体的には、質問3「授業中に居眠り・私語等をせず真剣に取り組みましたか。」、質問8「授業は興味・関心が持てる工夫がされていたか。」、質問9「授業は分かりやすくする工夫がされていたか。」、質問10「視聴覚機器や板書の使い方は適切でしたか。」、質問11「教科書・配布資料等は役に立ちましたか。」、質問12「声の大きさ・明瞭さ・話す速さは適切でしたか。」、質問13「授業の進む速さは適切でしたか。」、質問14「学生の質問等に誠実に対応しましたか。」、質問15「公平に学生に対応しましたか。」、質問16「教員は双方向的なやり取りをしながら、授業を行っていましたか。」、質問17「教員は熱心に授業に取り組んでいましたか。」などの項目も学習の効果として高い数値となっていた。特にこれらの項目は主体的な学習・能動的な取り組みの結果であり、これまでの授業改善が効果的に影響したものと考えられる。しかしながらその一方で、質問1「授業は何回欠席しましたか。」の項目は低い数値となっており、改善の必要性がみられる。

（３）次年度に向けての取り組み

次年度に向けての取り組みとしては、これまでの授業改善の流れを踏襲しつつも、新たな取組としてアクティブラーニングの要素を取り入れたグループ学習を積極的に導入したい。また、学習課題を明確にして、具体的な福祉実践に繋がる学びの内容を検討していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		ソーシャルワークの理論と方法（専門）Ⅱ	17名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

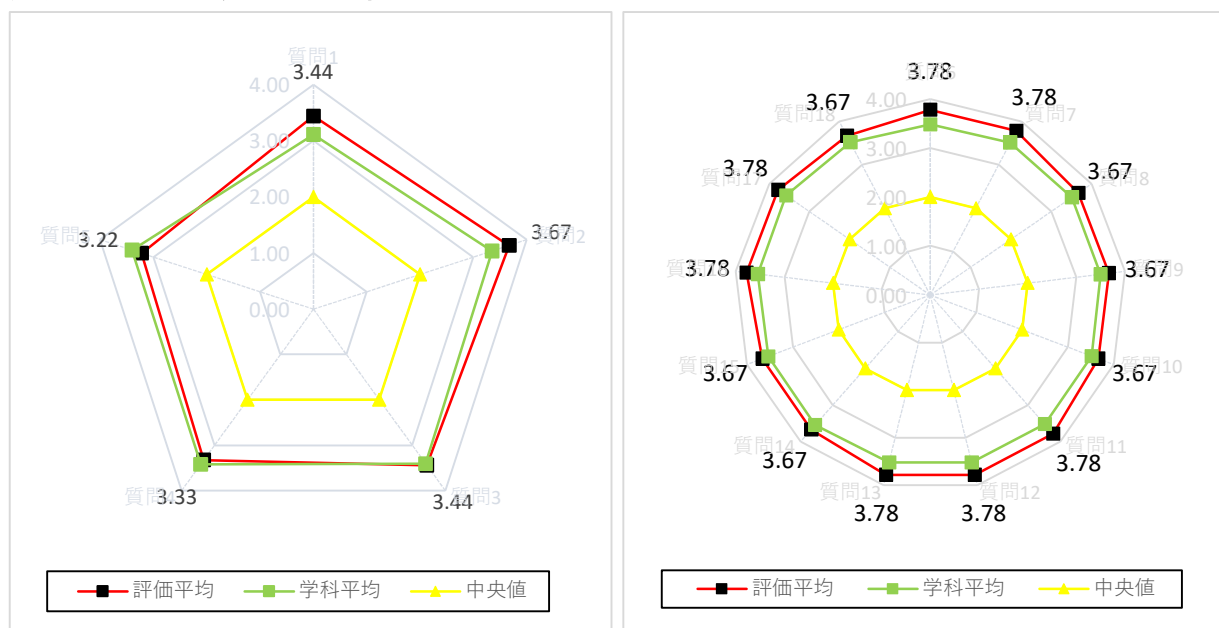
授業アンケート結果の分析と結果として、学科全体と比較しても高い評価を得ていた。具体的には、質問1「授業は何回欠席しましたか。」、質問6「シラバス（授業計画）について説明がありましたか。」、質問8「授業は興味・関心を持てる工夫がされていきましたか。」、質問9「授業は分かりやすくする工夫がされていきましたか。」、質問10「視聴覚機器や板書の用い方は適切でしたか。」、質問12「声の大きさ・明瞭さ・話す速さは適切でしたか。」、質問13「授業の進む速さは適切でしたか。」、質問18「この授業を総合評価して下さい。」などの項目も学習の効果として高い数値となっていた。特にこれらの項目は主体的な学習・能動的な取り組みの結果であり、これまでの授業改善が効果的に影響したものと考えられる。しかしながらその一方で、質問5「あなた自身の総合自己評価」の項目は低い数値となっており、改善の必要性がみられる。

（３）次年度に向けての取り組み

次年度に向けての取り組みとしては、これまでの授業改善の流れを踏襲しつつも、新たな取組としてアクティブラーニングの要素を取り入れたグループ学習を積極的に導入したい。また、学習課題を明確にして、具体的な福祉実践に繋がる学びの内容を検討していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		精神保健福祉援助演習 (専門) I	10名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

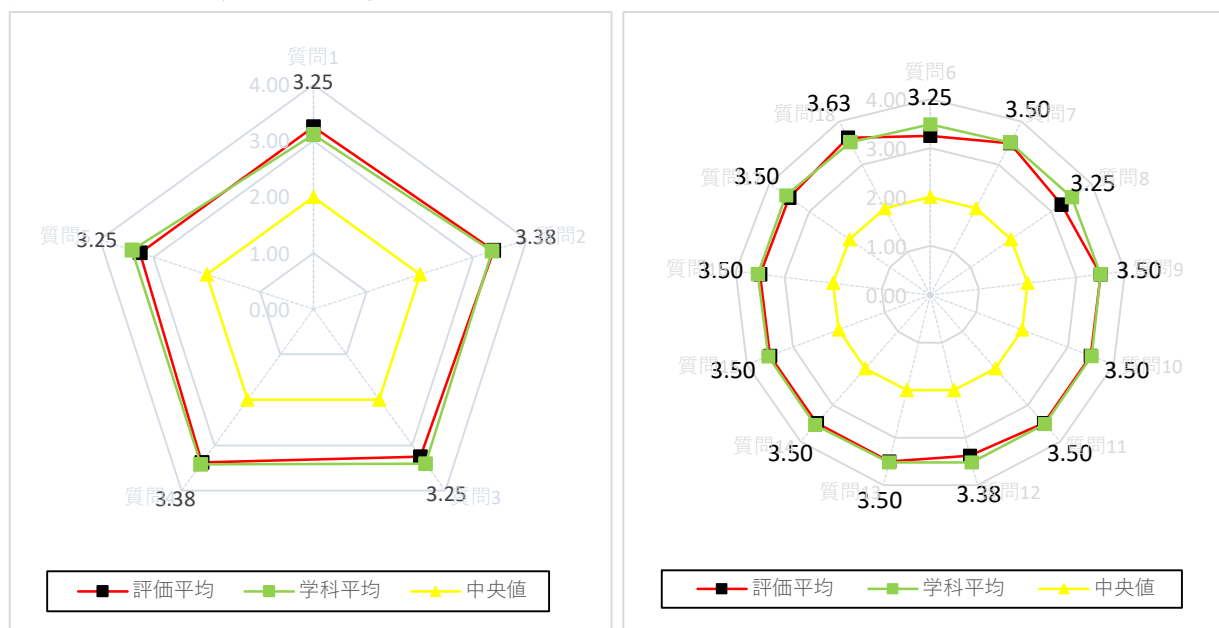
授業アンケート結果の分析・評価については、全体的に学科平均程度であり、さらに改善する必要がみられた。特に質問3「授業中に居眠り・私語等をせず真剣に取り組みましたか。」、質問4「あなたはこの授業を理解するために自分で何か工夫をしましたか。」、質問5「あなた自身の総合自己評価」などの評価が低く、教員の働きかけが十分ではなく、授業や学習課題に対して総体的に取り組むことができていないことがわかる。これらの傾向は前年度と同様の傾向であり、学習方法・課題の設定と進度との関係性を見直す必要がある。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けての取り組みとしては、学習内容の整理を行い体験的な内容を多く取り入れる。また、主体的に取り組みながら段階的に学習することができるようなシラバス構成を検討していくこととする。さらに、アクティブラーニングの要素を取り入れたグループ学習を積極的に導入したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		精神保健福祉援助演習 (専門)Ⅱ	11名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

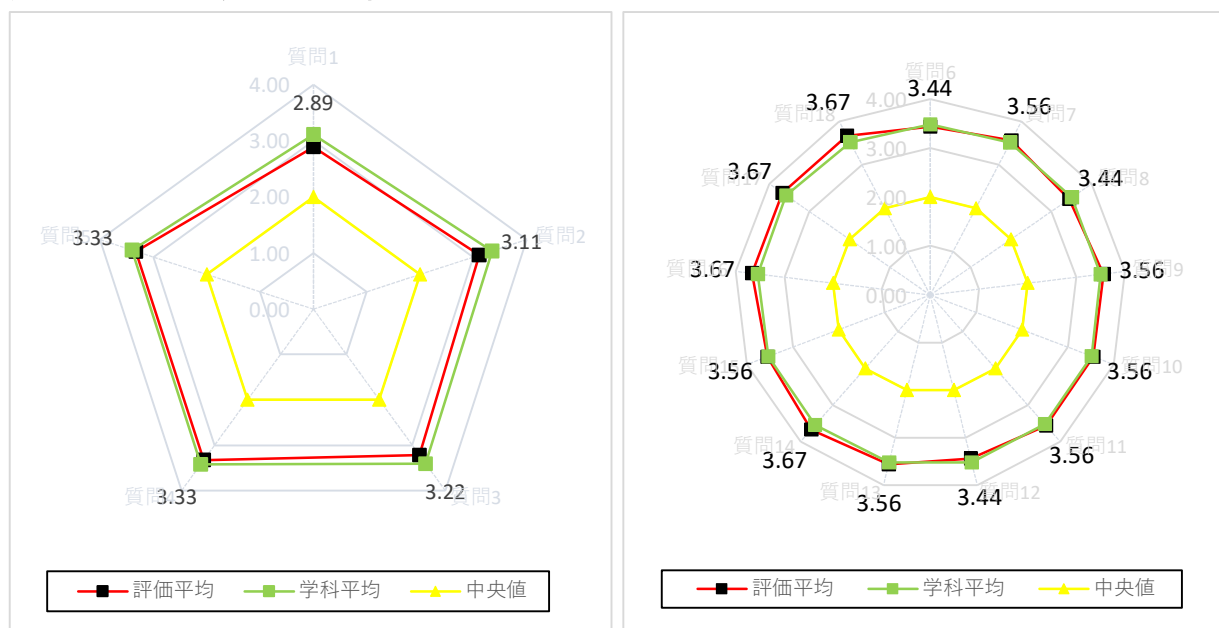
授業アンケート結果の分析・評価については、全体的に学科平均程度であり、さらに改善する必要がみられた。特に質問3「授業中に居眠り・私語等をせず真剣に取り組みましたか。」、質問5「あなた自身の総合自己評価」、質問6「シラバス（授業計画）について説明がありましたか。」、質問8「授業は興味・関心を持てる工夫がされていたか。」、質問12「声の大きさ・明瞭さ・話す速さは適切でしたか。」、質問17「教員は熱心に授業に取り組んでいましたか。」などの評価が低く、教員の働きかけが十分ではなく、授業や学習課題に対して総体的に取り組むことができていないことがわかる。これらの傾向は前年度と同様の傾向であり、学習方法・課題の設定と進捗との関係性を見直す必要がある。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けての取り組みとしては、学習内容の整理を行い体験的な内容を多く取り入れる。また、主体的に取り組みながら段階的に学習することができるようなシラバス構成を検討していくこととする。さらに、アクティブラーニングの要素を取り入れたグループ学習を積極的に導入したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		精神保健福祉援助演習 (専門)Ⅲ	11名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

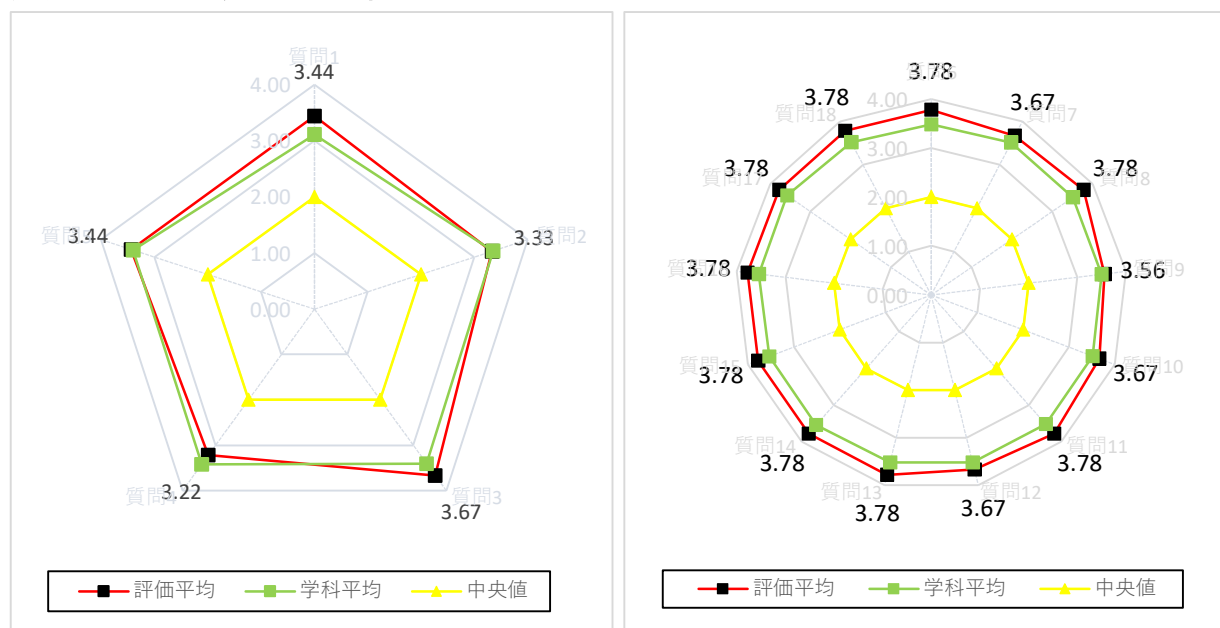
授業アンケート結果の分析・評価については、全体的に学科平均程度であり、さらに改善する必要がみられた。特に質問1「授業は何回欠席しましたか。」、質問2「シラバス（授業計画）を活用しましたか。」、質問3「授業中に居眠り・私語等をせず真剣に取り組みましたか。」、質問4「あなたはこの授業を理解するために自分で何か工夫をしましたか。」、質問5「あなた自身の総合自己評価」、質問6「シラバス（授業計画）について説明がありましたか。」、質問8「授業は興味・関心が持てる工夫がされていましたか。」、質問12「声の大きさ・明瞭さ・話す速さは適切でしたか。」などの評価が低く、教員の働きかけが十分ではなく、授業や学習課題に対して総体的に取り組むことができていないことがわかる。これらの傾向は前年度と同様の傾向であり、学習方法・課題の設定と進捗との関係性を見直す必要がある。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けての取り組みとしては、学習内容の整理を行い体験的な内容を多く取り入れる。また、主体的に取り組みながら段階的に学習することができるようなシラバス構成を検討していくこととする。さらに、アクティブラーニングの要素を取り入れたグループ学習を積極的に導入したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	11名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

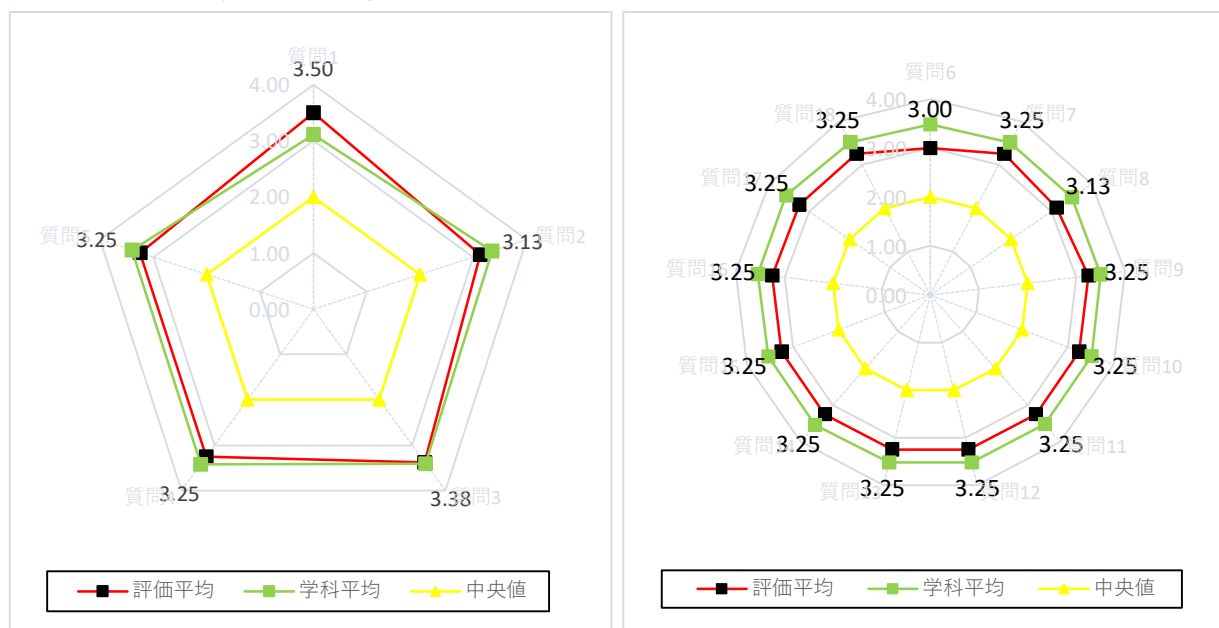
授業アンケート結果の分析と結果として、学科全体と比較しても高い評価を得ていた。具体的には、質問1「授業は何回欠席しましたか。」、質問3「授業中に居眠り・私語等をせず真剣に取り組みましたか。」、質問6「シラバス（授業計画）について説明がありましたか。」、質問8「授業は興味・関心が持てる工夫がされていましたか。」、質問11「教科書・配布資料等は役に立ちましたか。」、質問13「授業の進む速さは適切でしたか。」、質問14「学生の質問等に誠実に対応しましたか。」、質問15「公平に学生に対応しましたか。」、質問16「教員は双方向的なやり取りをしながら、授業を行っていましたか。」、質問17「教員は熱心に授業に取り組んでいましたか。」、質問18「この授業を総合評価して下さい。」などの項目も学習の効果として高い数値となっていた。特にこれらの項目は主体的な学習・能動的な取り組みの結果であり、これまでの授業改善が効果的に影響したものと考えられる。しかしながらその一方で、質問4「あなたはこの授業を理解するために自分で何か工夫をしましたか。」の項目は低い数値となっており、改善の必要性がみられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けての取り組みとしては、これまでの授業改善の流れを踏襲しつつも、新たな取組としてアクティブラーニングの要素を取り入れたグループ学習を積極的に導入したい。また、学習課題を明確にして、具体的な福祉実践に繋がる学びの内容を検討していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	11名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

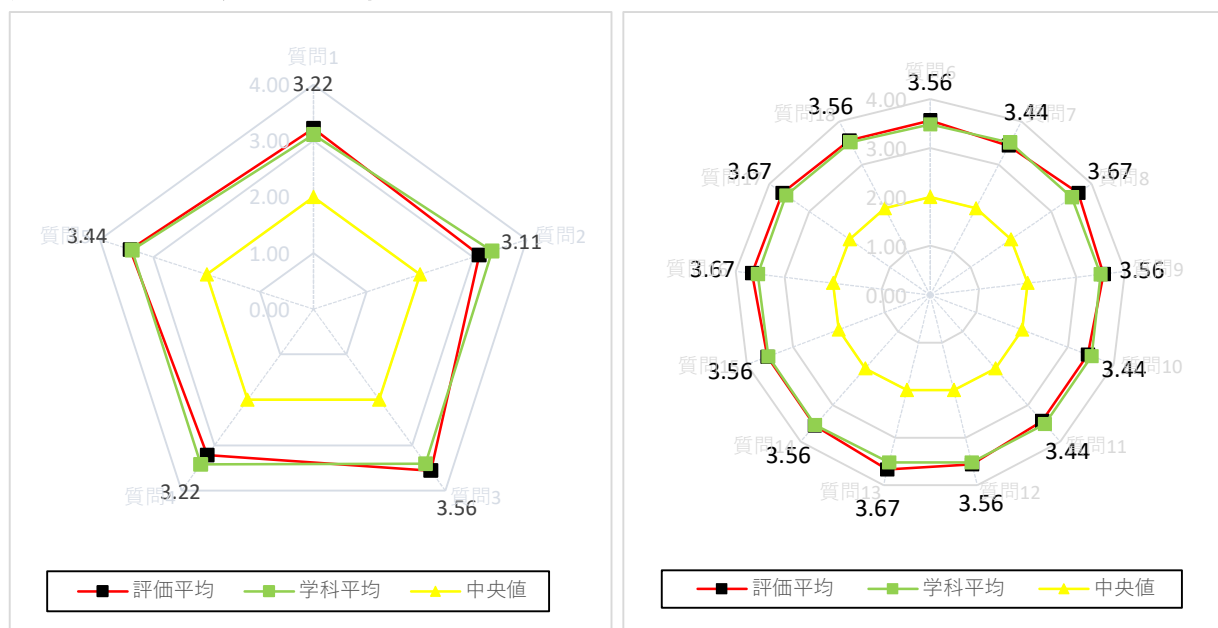
授業アンケート結果の分析・評価については、全体的に学科平均以下となっており、改善する必要がみられた。特に質問6「シラバス（授業計画）について説明がありましたか。」、質問7「教員は授業の到達目標を明確にして、授業を展開していましたか。」、質問8「授業は興味・関心が持てる工夫がされていたか。」、質問9「授業は分かりやすくする工夫がされていたか。」、質問10「視聴覚機器や板書の用い方は適切でしたか。」、質問11「教科書・配布資料等は役に立ちましたか。」、質問12「声の大きさ・明瞭さ・話す速さは適切でしたか。」、質問13「授業の進む速さは適切でしたか。」、質問14「学生の質問等に誠実に対応しましたか。」、質問15「公平に学生に対応しましたか。」、質問16「教員は双方向的なやり取りをしながら、授業を行っていましたか。」、質問17「教員は熱心に授業に取り組んでいましたか。」などの評価が低く、教員の働きかけが十分ではなく、授業や学習課題に対して総体的に取り組むことができていないことがわかる。早急に学習方法・課題の設定と進捗との関係性を見直す必要がある。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けての取り組みとしては、学習内容の整理を行い体験的な内容を多く取り入れる。また、主体的に取り組みながら段階的に学習することができるようなシラバス構成を検討していくこととする。さらに、アクティブラーニングの要素を取り入れたグループ学習を積極的に導入したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	11名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

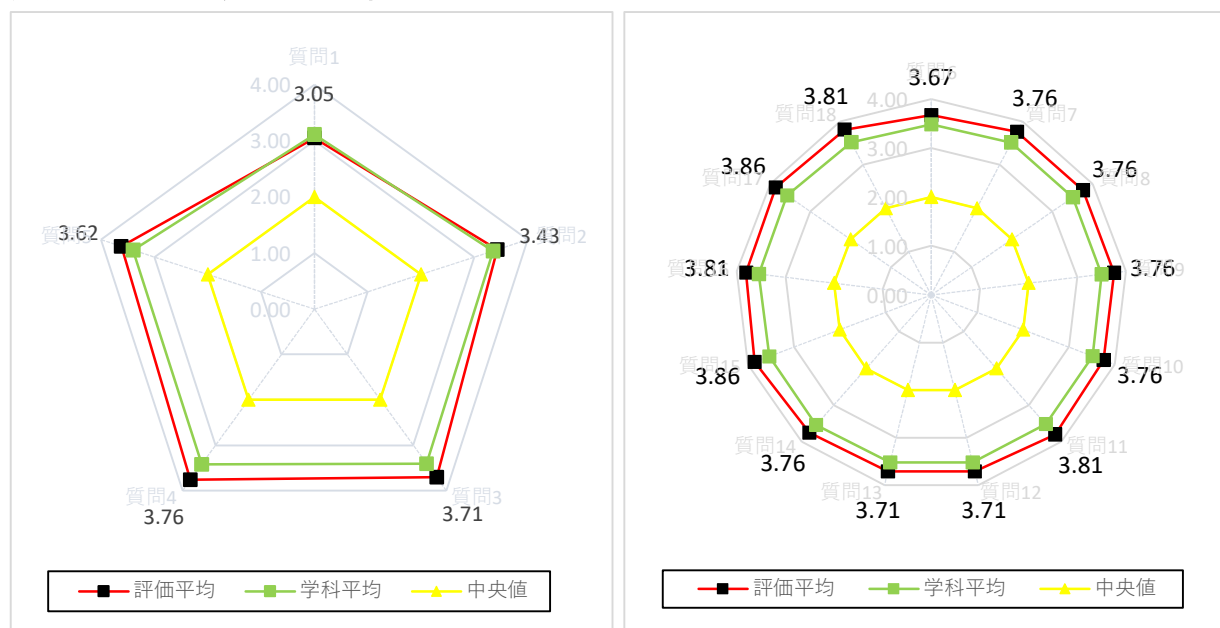
授業アンケート結果の分析・評価については、全体的に学科平均程度であり、さらに改善する必要がみられた。特に質問2「シラバス（授業計画）を活用しましたか。」、質問4「あなたはこの授業を理解するために自分で何か工夫をしましたか。」、質問7「教員は授業の到達目標を明確にして、授業を展開していましたか。」、質問10「視聴覚機器や板書の用い方は適切でしたか。」、質問11「教科書・配布資料等は役に立ちましたか。」、質問14「学生の質問等に誠実に対応しましたか。」、質問15「公平に学生に対応しましたか。」などの評価が低く、教員の働きかけが十分ではなく、授業や学習課題に対して総体的に取り組むことができていないことがわかる。これらの傾向は前年度と同様の傾向であり、学習方法・課題の設定と進捗との関係性を見直す必要がある。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けての取り組みとしては、これまでの授業改善の流れを踏襲しつつも、新たな取組としてアクティブラーニングの要素を取り入れたグループ学習を積極的に導入したい。また、学習課題を明確にして、具体的な福祉実践に繋がる学びの内容を検討していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		精神保健福祉の原理Ⅱ	23名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

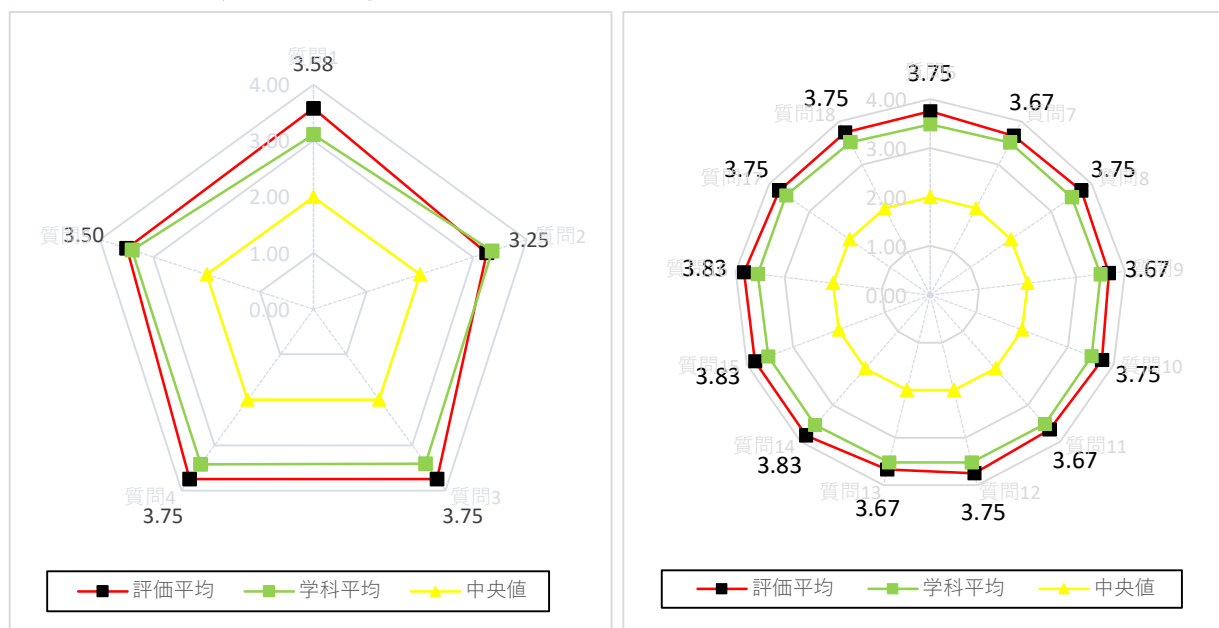
授業アンケート結果の分析と結果として、学科全体と比較しても高い評価を得ていた。具体的には、質問3「授業中に居眠り・私語等をせず真剣に取り組みましたか。」、質問4「あなたはこの授業を理解するために自分で何か工夫をしましたか。」、質問15「公平に学生に対応しましたか。」などの項目も学習の効果として高い数値となっていた。特にこれらの項目は主体的な学習・能動的な取り組みの結果であり、これまでの授業改善が効果的に影響したものと考えられる。しかしながらその一方で、質問1「授業は何回欠席しましたか。」の項目は低い数値となっており、改善の必要性がみられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けての取り組みとしては、これまでの授業改善の流れを踏襲しつつも、新たな取組としてアクティブラーニングの要素を取り入れたグループ学習を積極的に導入したい。また、学習課題を明確にして、具体的な福祉実践に繋がる学びの内容を検討していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		精神保健福祉の原理Ⅱ	16名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

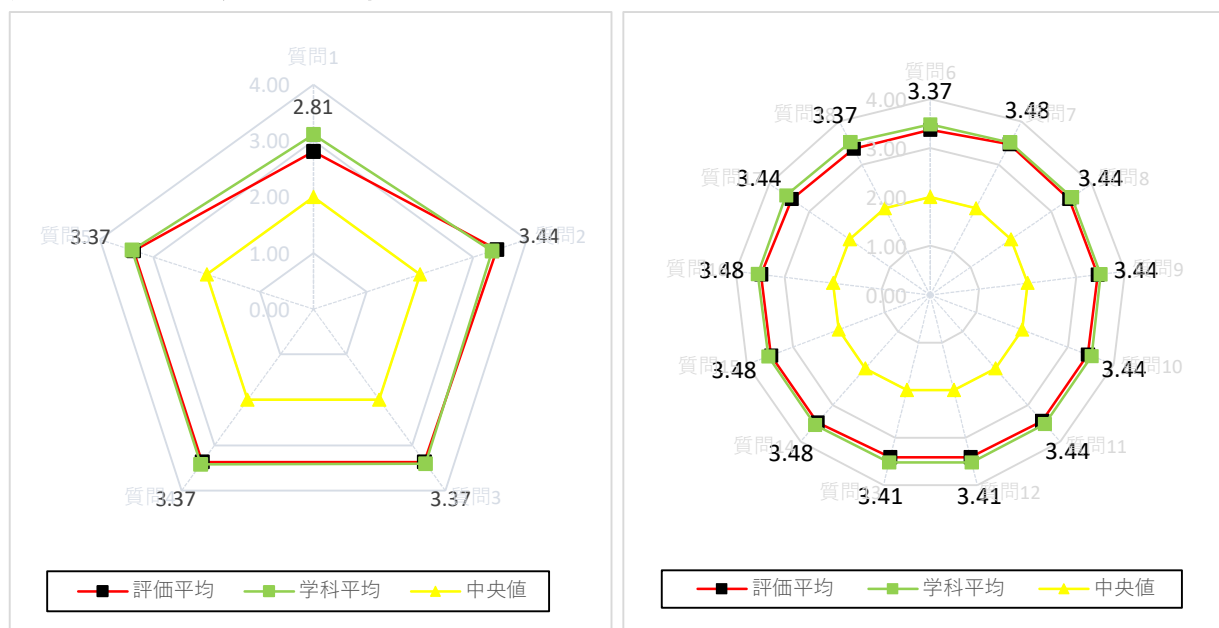
授業アンケート結果の分析と結果として、学科全体と比較しても高い評価を得ていた。具体的には、質問1「授業は何回欠席しましたか。」、質問3「授業中に居眠り・私語等をせず真剣に取り組みましたか。」、質問4「あなたはこの授業を理解するために自分で何か工夫をしましたか。」などの項目も学習の効果として高い数値となっていた。特にこれらの項目は主体的な学習・能動的な取り組みの結果であり、これまでの授業改善が効果的に影響したものと考えられる。しかしながらその一方で、質問2「シラバス（授業計画）を活用しましたか。」の項目は低い数値となっており、改善の必要性がみられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けての取り組みとしては、これまでの授業改善の流れを踏襲しつつも、新たな取組としてアクティブラーニングの要素を取り入れたグループ学習を積極的に導入したい。また、学習課題を明確にして、具体的な福祉実践に繋がる学びの内容を検討していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		衛生学（公衆衛生学を含む）	39名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

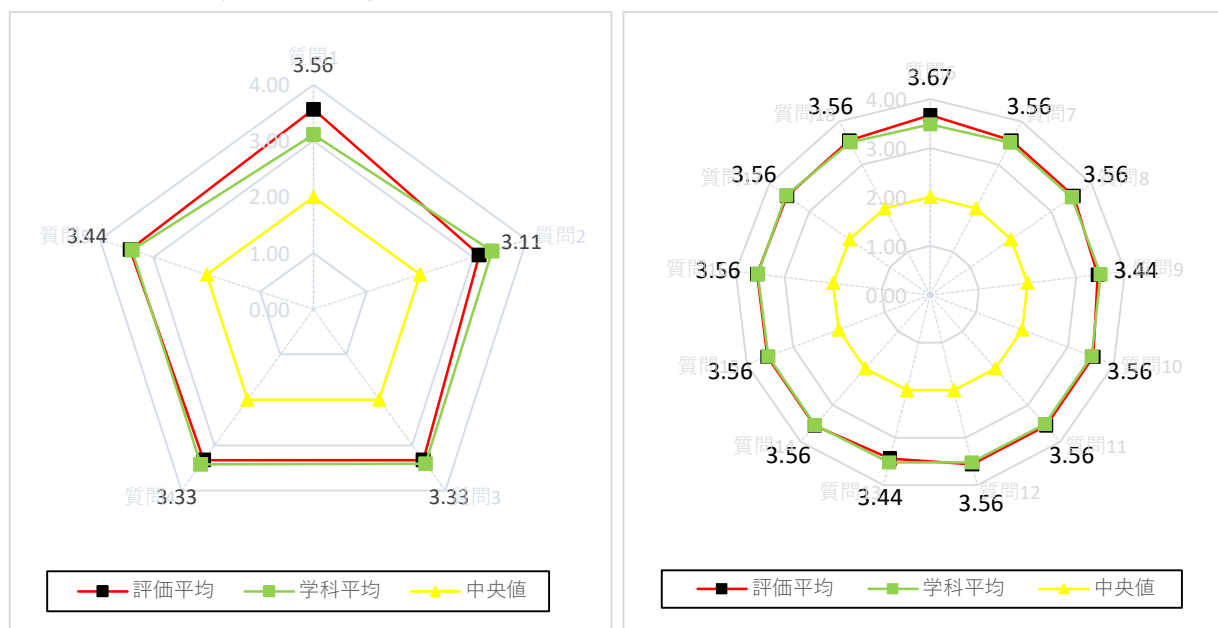
欠席率が高かった。他の項目は学科平均と同等だった。

（３）次年度に向けての取り組み

学生に出席を促す。出席したくなるような講義を工夫する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		精神保健福祉援助実習Ⅰ	11名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

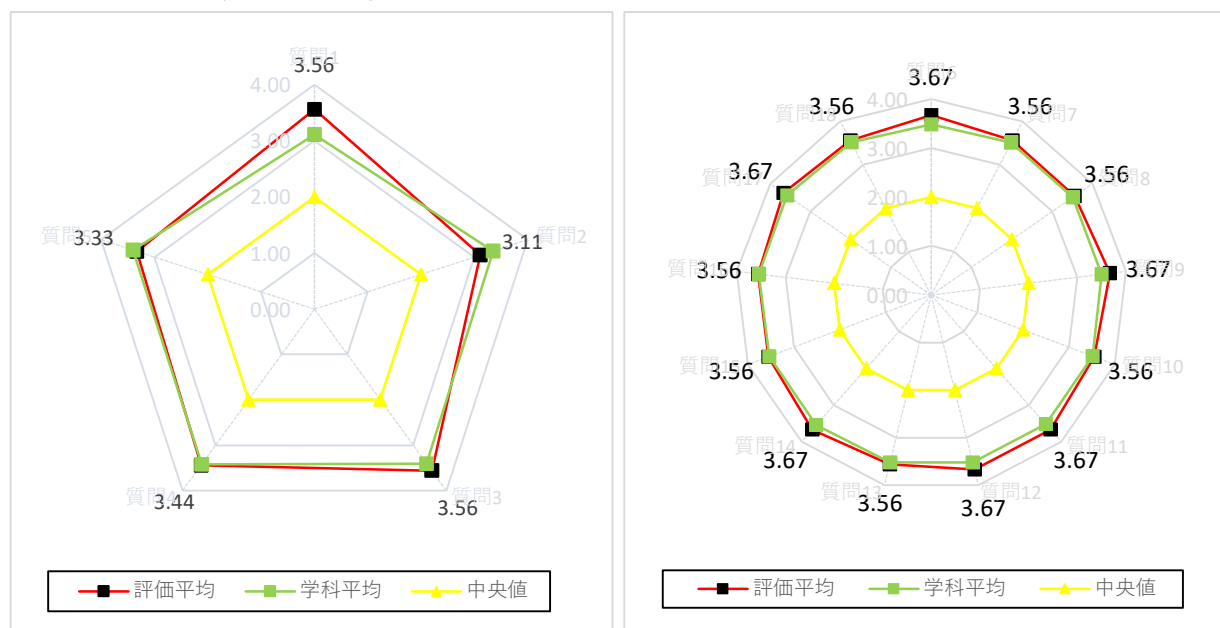
授業アンケート結果の分析・評価については、全体的に学科平均程度であり、さらに改善する必要がみられた。特に質問2「シラバス（授業計画）を活用しましたか。」、質問3「授業中に居眠り・私語等をせず真剣に取り組みましたか。」、質問4「あなたはこの授業を理解するために自分で何か工夫をしましたか。」、質問9「授業は分かりやすくする工夫がされていたか。」、質問13「授業の進む速さは適切でしたか。」、質問14「学生の質問等に誠実に対応しましたか。」、質問15「公平に学生に対応しましたか。」、質問17「教員は熱心に授業に取り組んでいましたか。」などの評価が低く、教員や実習指導者の働きかけが十分ではなく、実習や学習課題に対して総体的に取り組むことができていないことがわかる。これらの傾向は前年度と同様の傾向であり、実習における学習方法・課題の設定と進捗との関係性を見直す必要がある。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けての取り組みとしては、これまでの実習内容の改善の流れを踏襲しつつも、新たな取組としてアクティブラーニングの要素を取り入れた主体的な実践への取り組みを積極的に導入したい。また、実習における学習課題を明確にして、具体的な福祉実践に繋がる学びの内容を検討していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		精神保健福祉援助実習Ⅱ	11名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

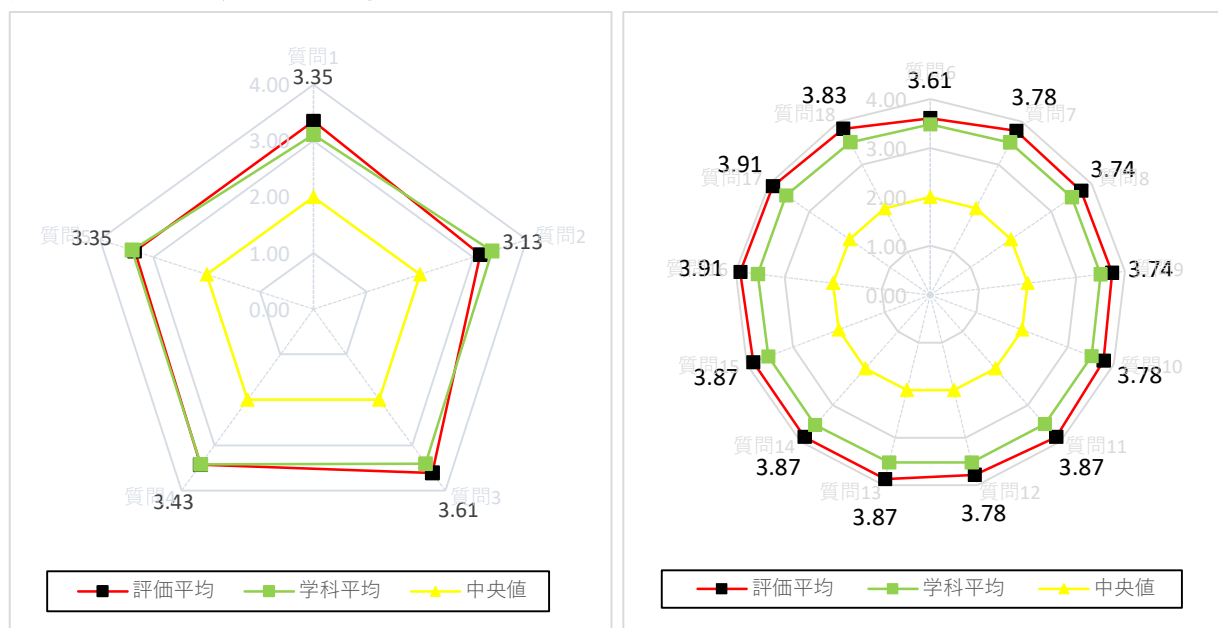
授業アンケート結果の分析・評価については、全体的に学科平均程度であり、さらに改善する必要がみられた。特に質問2「シラバス（授業計画）を活用しましたか。」、質問5「あなた自身の総合自己評価」、質問7「教員は授業の到達目標を明確にして、授業を展開していましたか。」、質問8「授業は興味・関心が持てる工夫がされていたか。」、質問10「視聴覚機器や板書の用い方は適切でしたか。」、質問13「授業の進む速さは適切でしたか。」、質問15「公平に学生に対応しましたか。」、質問16「教員は双方向的なやり取りをしながら、授業を行っていましたか。」、質問17「教員は熱心に授業に取り組んでいましたか。」、質問18「この授業を総合評価して下さい。」などの評価が低く、教員や実習指導者の働きかけが十分ではなく、実習や学習課題に対して総体的に取り組むことができていないことがわかる。これらの傾向は前年度と同様の傾向であり、実習における学習方法・課題の設定と進捗との関係性を見直す必要がある。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けての取り組みとしては、これまでの実習内容の改善の流れを踏襲しつつも、新たな取組としてアクティブラーニングの要素を取り入れた主体的な実践への取り組みを積極的に導入したい。また、実習における学習課題を明確にして、具体的な福祉実践に繋がる学びの内容を検討していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		精神保健福祉の原理Ⅰ	30名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

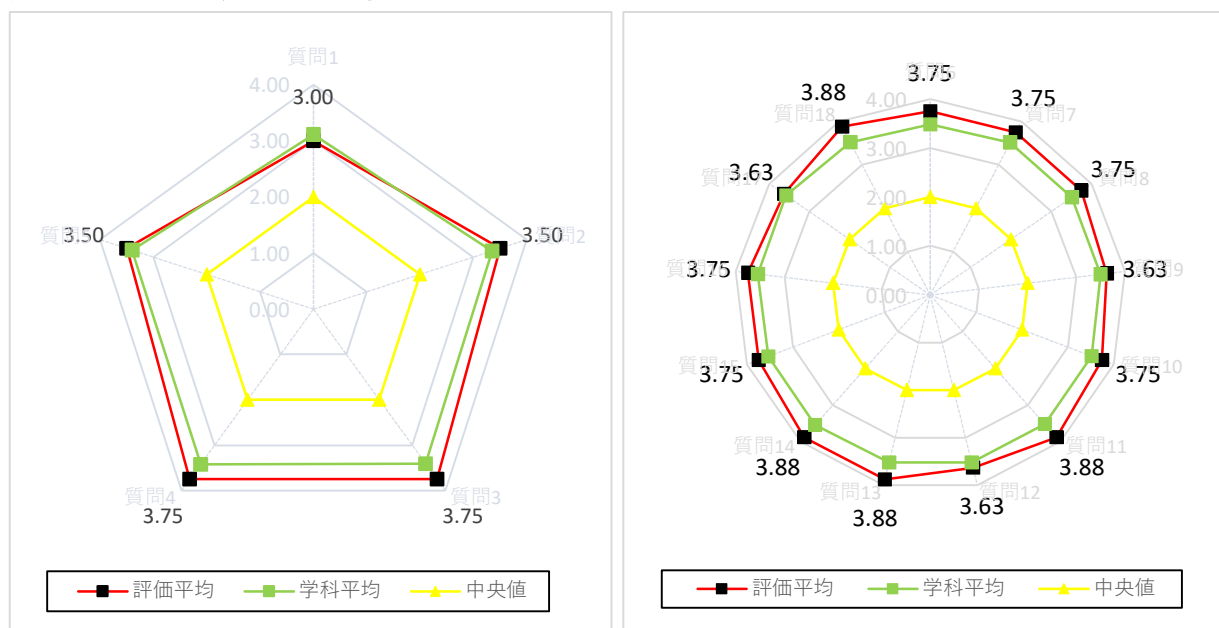
授業アンケート結果の分析と結果として、学科全体と比較しても高い評価を得ていた。具体的には、質問11「教科書・配布資料等は役に立ちましたか。」、質問13「授業の進む速さは適切でしたか。」、質問14「学生の質問等に誠実に対応しましたか。」、質問15「公平に学生に対応しましたか。」、質問16「教員は双方向的なやり取りをしながら、授業を行っていましたか。」、質問17「教員は熱心に授業に取り組んでいましたか。」、質問18「この授業を総合評価して下さい。」などの項目も学習の効果として高い数値となっていた。特にこれらの項目は主体的な学習・能動的な取り組みの結果であり、これまでの授業改善が効果的に影響したものと考えられる。しかしながらその一方で、質問2「シラバス（授業計画）を活用しましたか。」、質問4「あなたはこの授業を理解するために自分で何か工夫をしましたか。」、質問5「あなた自身の総合自己評価」の項目は低い数値となっており、改善の必要性がみられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けての取り組みとしては、これまでの授業改善の流れを踏襲しつつも、新たな取組としてアクティブラーニングの要素を取り入れたグループ学習を積極的に導入したい。また、学習課題を明確にして、具体的な福祉実践に繋がる学びの内容を検討していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		健康運動総合演習 I	8名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

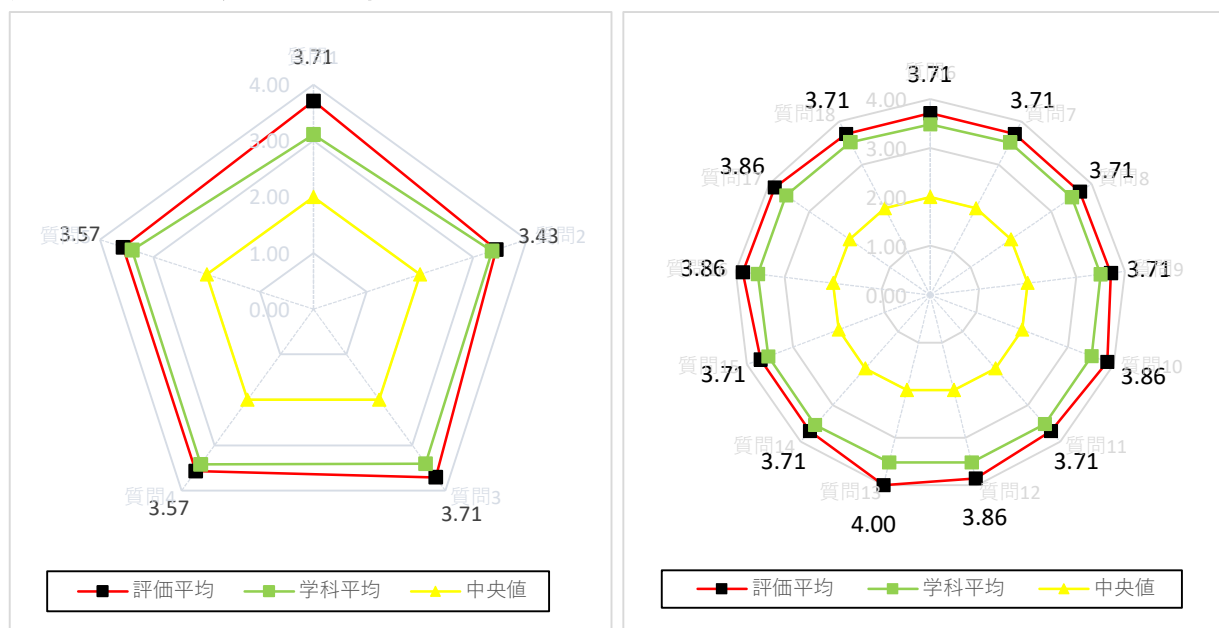
履修者全て（8名）からの回答があった。まず、学生自身の授業評価（質問1～5）では授業出席に関する質問（質問1）で2または1の回答もあり、評価平均が3.0と欠席が少し多くなった学生もいた。その他の質問の評価は、3.5または3.75とまずまずの結果であった。質問6以降の私自身に関わる質問では全てにおいて3.6以上の評価であり、質問18の総合評価としては3.88と高い評価であったことから、全体的に良好な授業評価を得たものとする。

(3) 次年度に向けての取り組み

学科で取得できる資格に関する授業でその受験対策内容を中心に展開したが、実技内容に時間を取られ筆記試験対策が十分ではなかった。学生自身が自宅学習できるような授業内容を今後検討する必要がある。履修学生数も例年多くはないため今後も個別指導を中心に授業を進めることが必要であり、結果受験の合格率も向上するものとする。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		地域スポーツ実践演習Ⅱ	7名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

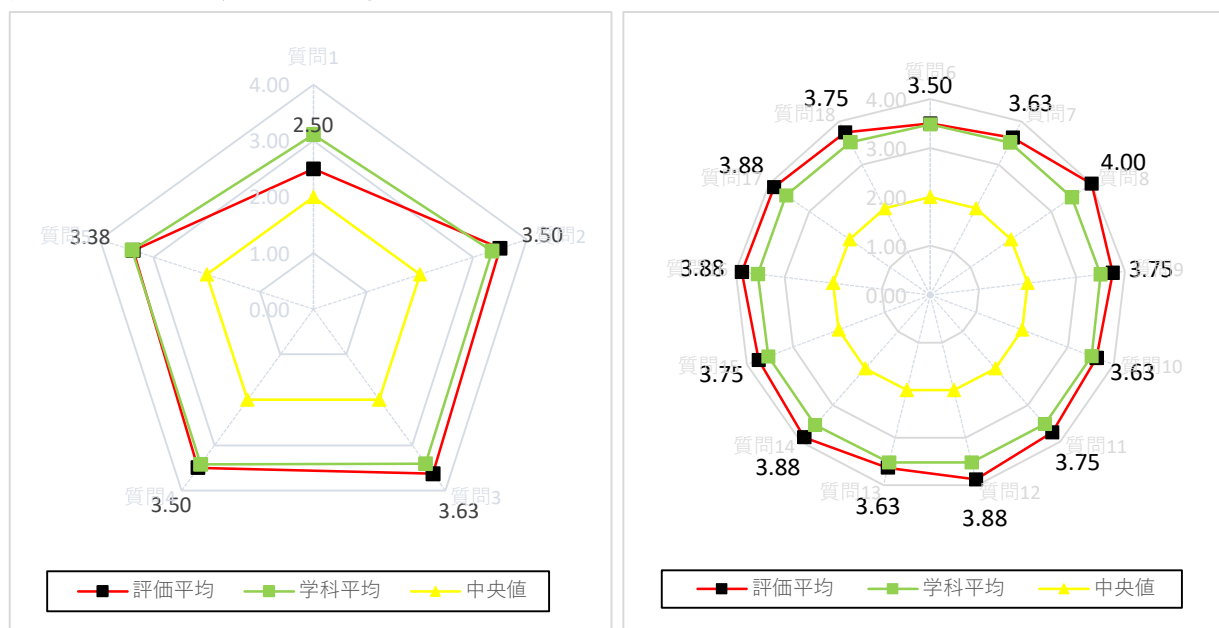
本科目は専門教育科目/学科専門科目/健康スポーツに関する科目/生涯スポーツ支援関連科目(選択科目)として、3年次に通年で開講している。私が担当するゼミ生7名が履修した。履修学生7名全員から回答があり、すべての質問項目において学科平均を上回る結果となった。授業内容・方法に関する項目の質問13「授業の進度」、および教員の対応に関する項目の質問16「双方向的なやり取り」は学科平均を大きく上回ったことから、学生にとって無理のないスケジューリングや十分なコミュニケーションのもとで学外活動が実践できていたことが伺える。

(3) 次年度に向けての取り組み

今年度の取り組みを継続していくとともに、今後も学生と十分に信頼関係を築きながら授業を進めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		地域スポーツ実践演習Ⅰ	9名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

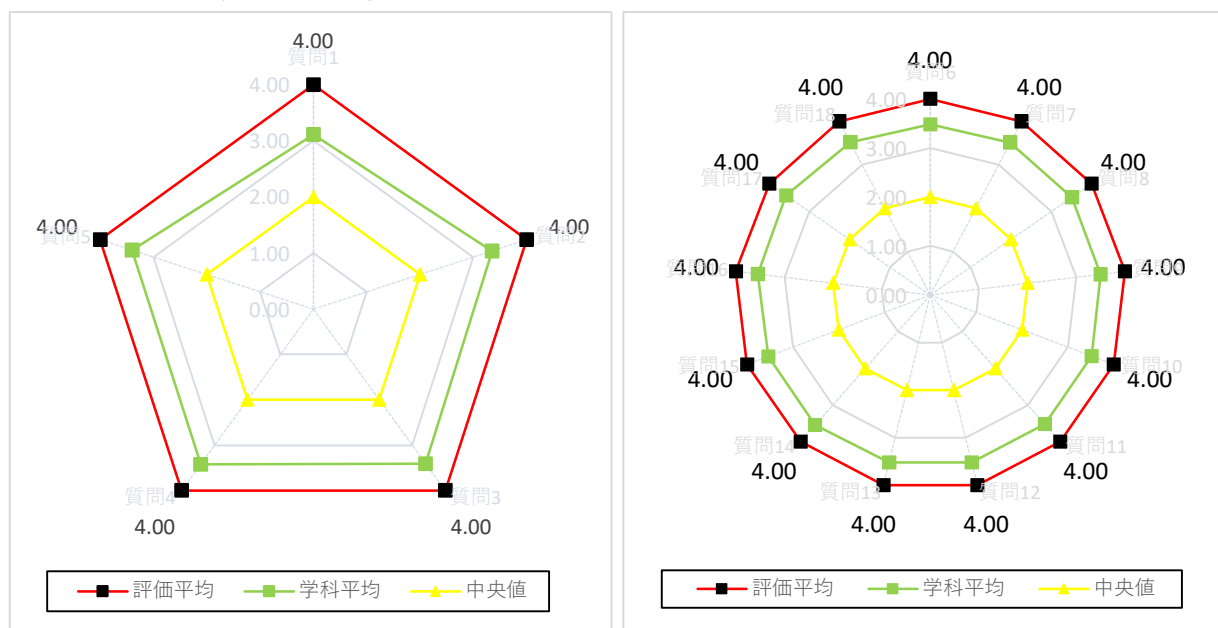
本科目は専門教育科目/学科専門科目/健康スポーツに関する科目/生涯スポーツ支援関連科目(選択科目)として、2年次に通年で開講している。私が担当するゼミ生9名が履修した。履修学生9名のうち8名から回答があり、ほぼすべて質問項目において学科平均を上回る結果となった。一方、自身の授業参加態度に関する項目の質問1「欠席回数」が学科平均を下回ったことから、自己管理を促す声かけが必要であると考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

昨年度に準じた取り組みを継続するとともに、自己管理を促す働きかけを行っていきたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		キャリアデザイン実践演習	3名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

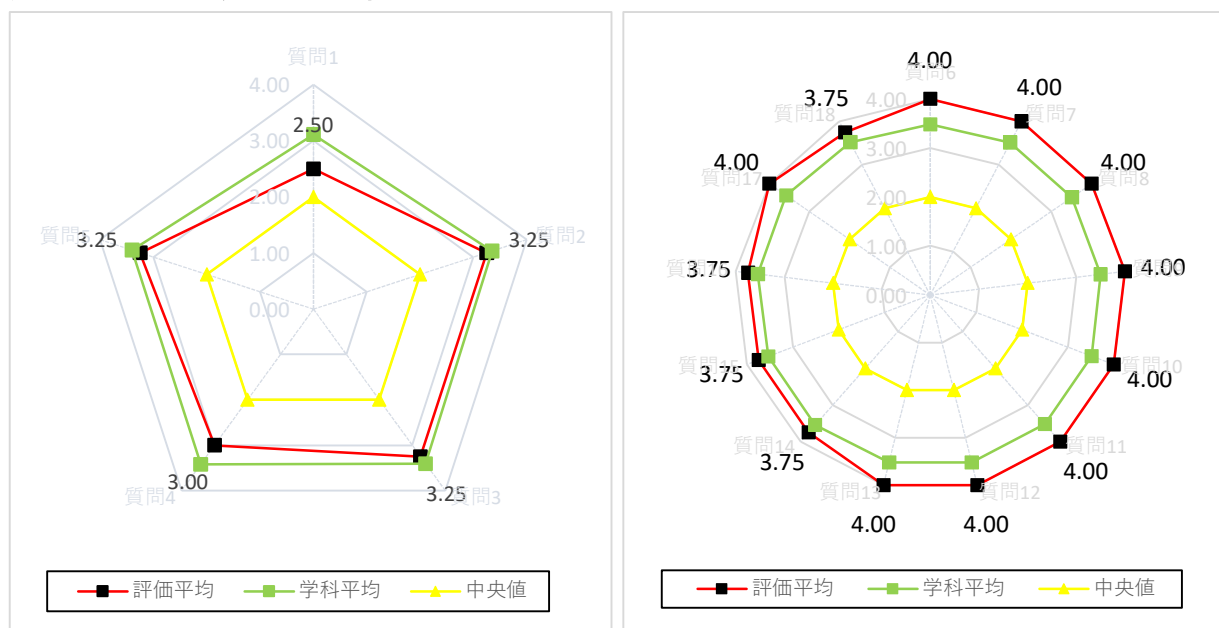
本科目は専門教育科目/学科専門科目/キャリアデザイン関連科目(選択科目)として、3年次に通年で開講しており1名のゼミ生が履修した。
履修学生1名からの回答であったうえ、すべての質問項目において満点の評価であったことから、今回は評価の参考として受けとめたい。ただし、本授業は学生が主体的に受け入れ企業等について検討し、10日間のインターンシップを実践後に報告書をまとめるというものであったことから、学生自身として満足度の高い活動が実践できていたとも考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も希望するゼミ生のサポートを行うとともに、満足度の高いインターンシップとなるよう指導していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		生活支援技術入門	6名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

質問1～5についてはいずれも低い結果となった。質問1は、個別のシラバスを作成、配布したにも関わらずこのような結果になったのは残念である。できるだけ活用できるよう、毎回のテーマ設定だけでなく次回に向けた内容、準備を含め授業を展開しなければならないと考える。

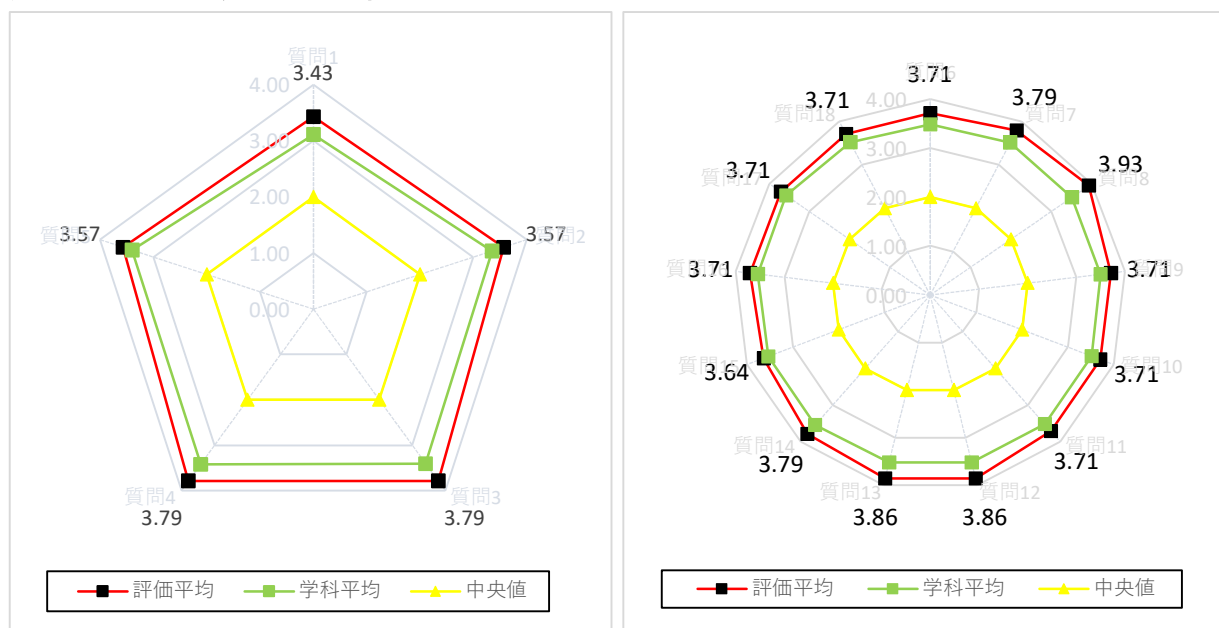
質問6～18にかけては、実技演習であり、デモンストレーションや実技への助言という展開が多い科目の特徴であると考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・ 毎回の授業で、次回のテーマ、予習のポイントなどを懇切丁寧に伝える工夫を行いたい

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		家政学概論	25名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

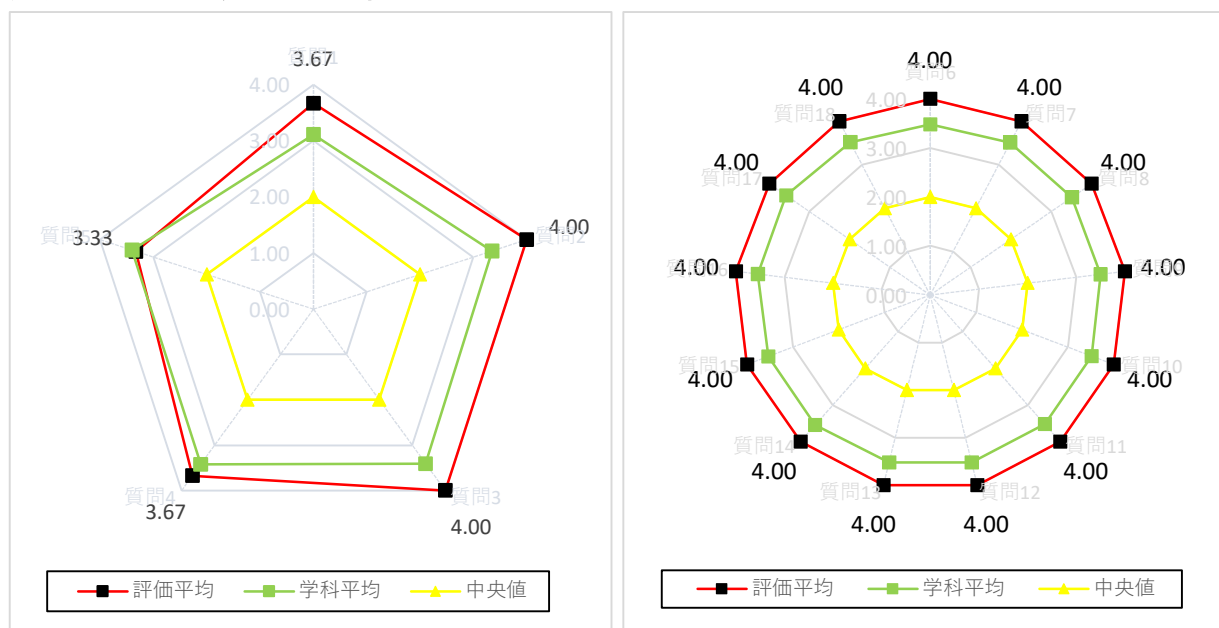
全体的な評価が、学科平均に対しやや高い傾向となっている。
 特に質問1～5は学科平均値より高い傾向であることから、講義全体の内容（シラバス）と各回の講義内容について精査を行い、今後も学生の学修満足度、学習理解度を高めるよう工夫を継続していきたい。
 また、質問6～18については、全体を通して3.7点前後であることから、上記の件も含め、改めて各項目に示される内容について、自身の講義スタイルを見直すきっかけとしたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

オムニバス形式での講義であるが、教員間や講義内容（実習やワーク等）の連携、リンクも視野に学生の学修満足度、学習理解度を高めていけるよう工夫していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		基礎生活支援技術Ⅱ	4名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

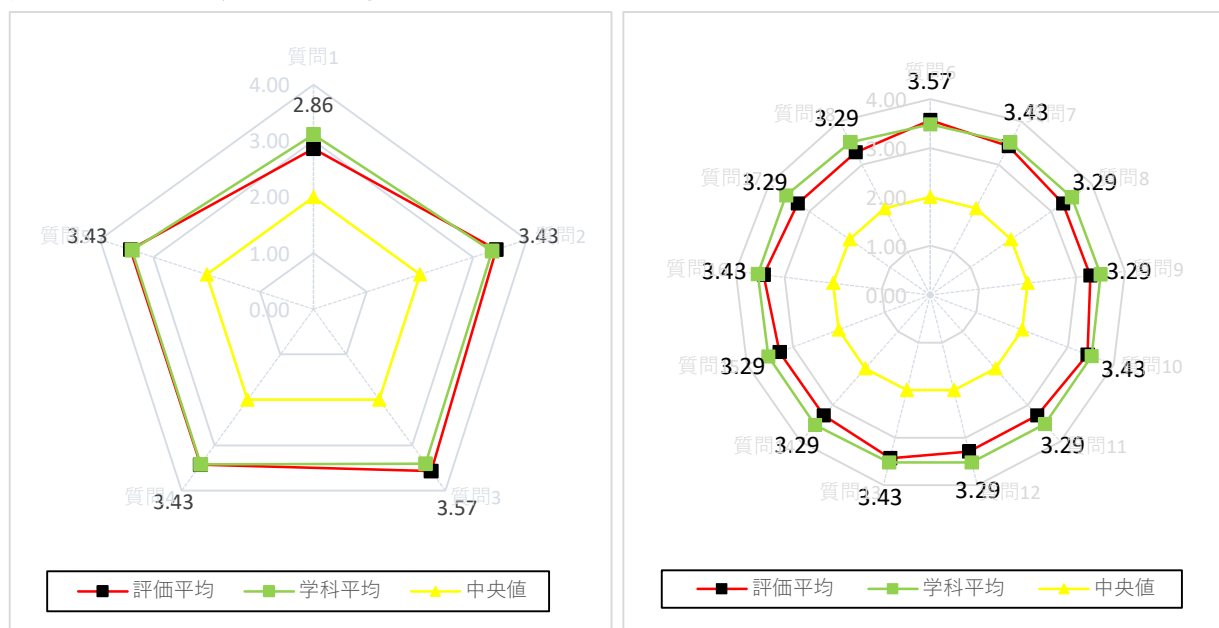
質問1～5、質問6～18、いずれも学科平均より高い結果となった。受講者数が例年に比して少なかったこと、実技演習であるという本科目の特徴が関係していると考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

2026年度は留学生が受講することになるので、教材の工夫、理解度の確認などをより丁寧に実施していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		応用生活支援技術Ⅳ(認知症)	9名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

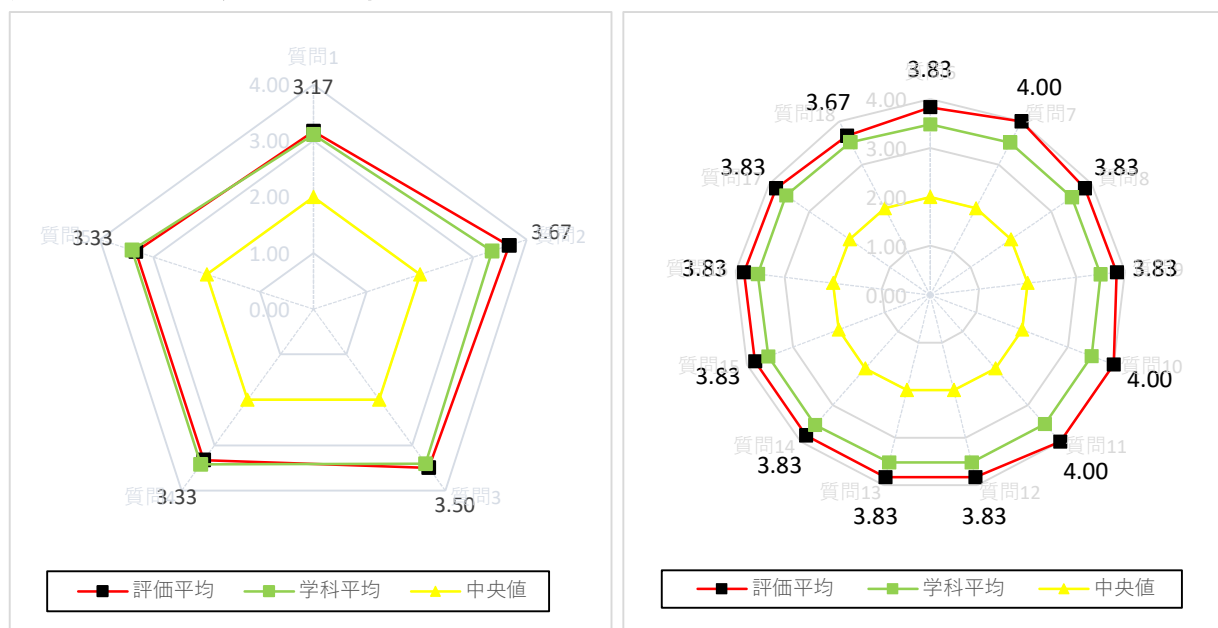
学科平均より低いのは質問1～5では質問1（欠席回数）である、質問6～18については質問6以外はすべて低い結果となった。実習と連動しており、かつ演習が中心の科目であるにも関わらず、このような結果になったことは大きな課題である。とくに学科平均と差が開いた項目は質問8（興味・関心）、9（分かりやすくする工夫）、11（教科書・配布資料等）、12（声の大きさ・明瞭さ・話す速さ）、14（学生の質問等に誠実に対応）、15（公平に学生に対応）、17（熱心に授業に取り組み）である。本科目は教員の専門分野と最も強い関連がある科目であり、最新の研究成果のデータや資料、教材を活用しながら進めたが、9、11、17が平均に至らない結果となった。また12については、同じ教室で同じ規模の授業と比較しても低い結果となった理由は不明である。14については学生からの質問はなされなかったので原因は不明であるが、一人ひとり発言を求める演習形式の場面などで、意見と受け止めたものの中には本当は「質問」であったものが混在していたのかもしれない。15では演習では順番に発言を求めることはあっても学生個々に個別に発言を求めることは実施して

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・マイクの活用の検討
- ・学生の感想、意見を「質問」に読み替え対応
- ・専門性の高い研究動向や最新の資料は使用せず、テキストの基本的な内容の理解に収める
- ・最低限の到達目標を達成するために個別の指導を行うのか、個々の到達度に関わらず、平均的な指導で終えるのか、資格養成の他教員と協議をしながら進めていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		介護過程演習Ⅱ	7名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

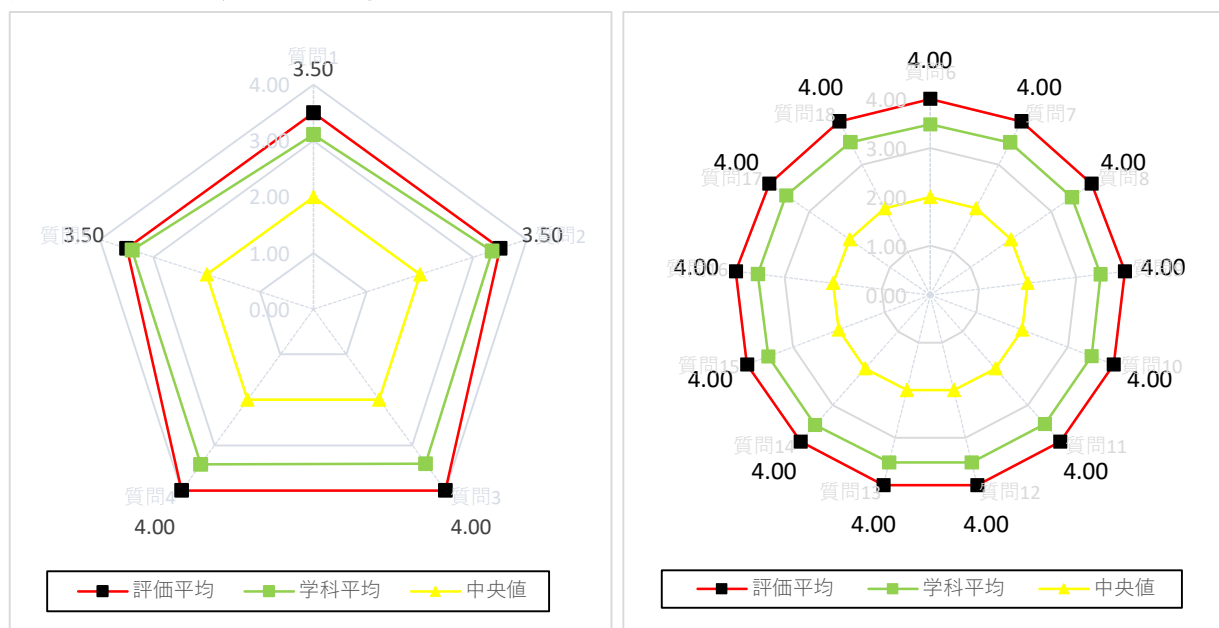
介護実習と連動した科目であり、毎回の授業で利用者の個別支援計画（案）を立案する科目である。質問1～5については、ほぼ学科平均と同様であった、質問6～18については学科平均より高い結果となった。科目の特徴から主体性が求められる演習であるためこのような結果になったと考える

(3) 次年度に向けての取り組み

介護実践現場の変化（生産性向上、科学的介護）に適応できるよう、学びの要素と現場の実践との関連を意識しながら演習内容の改善に取り組みたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		医療的ケア I	4名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

医療用語や臓器の解剖生理などを覚えることが多いため、プリントや配布資料などの工夫を行った。習熟度を随時確認することや、授業終了後に質問を受ける機会を設けたことなどが評価につながっていると考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

外国人介護留学生の理解が深まるよう、説明時のスライドやワークシートなどの工夫を検討する。